

県立高等学校長期構想検討委員会

報 告（素案）

平成 1 9 年 1 月

県立高等学校長期構想検討委員会

目 次

はじめに	1
県立高等学校教育改革第一次実施計画の評価	
〔県立高等学校教育改革第一次実施計画全体の評価〕	2
〔各項目ごとの評価〕	
1 魅力ある学校づくりの推進	3
2 県立高等学校の望ましい規模と配置	5
3 入学者選抜制度・方法の改善	6
4 定時制・通信制高等学校の活性化と望ましい配置	6
5 その他	7
県立高等学校教育改革第二次実施計画（仮称）の方向性	
〔県立高等学校教育改革第二次実施計画（仮称）全体の方向性〕	8
〔今後の高校教育のあり方〕	9
〔各項目ごとの方向性〕	
1 魅力ある学校づくりの推進	9
2 県立高等学校の望ましい規模と配置	12
3 入学者選抜制度・方法の改善	12
4 定時制・通信制高等学校の活性化と望ましい配置	12
おわりに	14
用語解説	15
県立高等学校長期構想検討委員会審議経過	18
県立高等学校長期構想検討委員会設置要綱	19
県立高等学校長期構想検討委員会委員名簿	20
資 料	21

は じ め に

県立高等学校長期構想検討委員会は、平成18年8月10日、兵庫県教育委員会から「県立高等学校教育改革第一次実施計画」(平成12年度～20年度)の評価・検証を行うとともに、平成21年度以降の計画(平成21年度～25年度)の方向性について検討することを依頼され、8月10日の第1回委員会以降、4回の協議を行った。

「県立高等学校教育改革第一次実施計画」は、「個性を尊重する多様で柔軟な高校教育への転換を図る」「生徒急減に対応した学校の望ましい規模の確保と配置の適正化を進める」「過度の受験競争を緩和し生徒の主体性を生かせる選抜システムを工夫する」「生涯学習社会に対応し地域に開かれた学校づくりを進める」の4つの視点を柱とし、兵庫県教育委員会が「学びたいことが学べる魅力ある学校づくり」を目指して推進しているものである。

当委員会で「第一次実施計画」の評価・検証を行うに当たっては、これら4つの視点を柱として推進されている「魅力ある学校づくりの推進」「県立高等学校の望ましい規模と配置」「入学者選抜制度・方法の改善」「定時制・通信制高等学校の活性化と望ましい配置」の各項目について、その実施状況をみながら成果・課題を整理し検証を行った。

その結果、計画は着実に実施されており、計画の実施とあわせて様々な事業を展開し、各高等学校の特色化を積極的に図ってきていることから、兵庫県における高校教育改革は概ねその成果が上がっていると考えられる。

こうした成果に基づき、平成21年度以降についても、「第一次実施計画」で示した4つの視点を踏まえるとともに、今後の高校教育の在り方を視野に入れつつ、その改善・充実を図ることにも配慮しながら、「第二次実施計画」を考えていく必要があると考える。

そこで、当検討委員会では、これまでの協議の内容をまとめ、このたび以下の報告(素案)を作成した。

県立高等学校教育改革第一次実施計画の評価

〔県立高等学校教育改革第一次実施計画全体の評価〕

まず、「第一次実施計画」を策定する時点で課題となっていた、国際化・情報化などの社会の変化や少子化の進展、高校進学率の上昇に伴う生徒の多様化等への対応という観点においては、学校や生徒・保護者等へのアンケート結果等からみて、兵庫県の高校教育改革は概ね評価できる。

総合学科 や単位制高校 、多部制高校 などの新しいタイプの学校は、志願状況等からみて生徒にとって魅力ある学校となっており、学びたいことが学べる学校選択が進んでいる。また、複数志願選抜 と特色選抜 からなる新しい選抜制度においても、学びたいことが学べる学校選択が進むなど当初の目的が、概ね達成されている。

また、「第一次実施計画」の推進にあわせて、高大連携等推進事業 、理数教育推進事業 、高校生地域貢献事業 、高校生就業体験事業 等の諸事業が実施されていることにより、教育内容においても各高等学校の個性化・特色化を図るとともに、人間的成長を促す幅広い学力を育成する取組が進められている。

一方、課題としては次のようなことがあげられる。

まず、「第一次実施計画」で推進した新しいタイプの学校の設置や新しい選抜制度の導入などの新たな枠組みやシステムを、より効果あるものとして定着させるために、今後は、一層各学校での教育内容の充実や教員の意識改革などを図っていく必要があると考えられる。

さらに、総合学科や単位制高校の仕組みや魅力、新しい選抜制度の趣旨や内容について、中学生や保護者にさらに広報する必要がある。

本文中 印をつけた用語については、15ページ以下に用語解説を付した。

〔各項目ごとの評価〕

1 魅力ある学校づくりの推進

(1) 総合学科の設置

実施状況

- ・ 原則として普通科の学区に各1校という第一次実施計画の設置目標に対して、19年度までに16学区中で学校数の少ない2学区を除く14学区に設置を進めている。
- ・ 志願者数は概ね多く、生徒へのアンケート調査でも約78%の生徒が志望校の決め手として「特色あるシステムや学習内容」と回答するなどの結果が得られている。

評価

【成果】

- ・ 第一次実施計画における総合学科の設置により、県下のいずれの地域からも総合学科に進学できる状況となっており、県下全体として妥当な配置状況といえる。
- ・ 生徒の興味・関心等が多様化している中で、将来の生き方や在り方を考えさせた上で、普通科目と専門科目の中から生徒が選択して学べる総合学科はよい仕組みである。
- ・ アンケート結果などをみても、生徒にとって魅力ある学科となっている。

【課題】

- ・ 推薦入学での志願倍率が高いものの学力検査では定員割れが起きた学校や、志願変更での志願者が多い学校がある。これらには、選抜制度との関係や地域性などの要因が考えられるのではないかと。
- ・ 総合学科を設置して約10年経過したが、当初の趣旨を生かした教育課程になっているかどうかを検証し、多様な生徒のニーズに対応した教育内容として充実させていく必要があるのではないかと。
- ・ 中学生や保護者に対して、総合学科の特色や総合学科と普通科の違い等を、もっと理解してもらうよう説明する必要があるのではないかと。

(2) 全日制普通科単位制高等学校の設置

実施状況

- ・ 原則として県下7地域に各1校、学校数や生徒数の多い地域では複数校設置という第一次実施計画の目標に対して、神戸地域の2校を含め6校（市立高校は除く）設置している。但馬地域や淡路地域では全日制普通科単位制高校は設置していないが、単位制高校としては総合学科を設置している。
- ・ 志願者数は概ね多く、生徒へのアンケート調査でも約90%の生徒が「高校生活を充実して過ごしている」と回答するなどの結果が得られている。

評価

【成果】

- ・ 第一次実施計画における単位制高校の設置により、生徒の高校選びの選択肢が広がっていることは評価できる。
- ・ 単位制高校では、多彩な選択科目を用意するなど、それぞれの学校で特色を出すよう努力をしており、多様化した生徒への弾力的な対応が可能で、生徒にとって魅力ある学校となっている。

【課 題】

- ・ 第一次実施計画では学校数や生徒数の多い地域では複数校設置という目標が掲げられているように、生徒の選択の幅を広げるためには、複数校の設置が必要ではないか。
- ・ 単位制高校について、その趣旨を生かした教育課程になっているかどうかを検証し、多様な生徒のニーズに対応した教育内容として充実させていく必要があるのではないか。
- ・ 中学生やその保護者に対して、単位制の仕組みや単位制と学年制の違い等を、もっと理解してもらうよう説明する必要があるのではないか。

(3) 新しい専門高校及び特色ある専門学科の設置

実施状況

- ・ 第一次実施計画では、新しい専門高校を 1 校（国際高校）、特色ある専門学科として 4 学科（環境防災科、国際人間科、サイエンスリサーチ科、総合理学科）の設置を進めている。
- ・ 志願者数は概ね多く、生徒へのアンケート調査でも約 88% の生徒が「進路希望の実現のために高校での学習は役に立っている」と回答するなどの結果が得られている。

評 価

【成 果】

- ・ 社会の変化に対応して、新しい専門高校や特色ある専門学科を設置していることは望ましいことであり、アンケート結果などをみても、時代のニーズにあった学科として成果を上げていると評価できる。
- ・ 本県の特性を生かした学科として設置した舞子高校の環境防災科は、災害と自然環境や社会環境との関わりを実践的・体験的に学べる学科として、大いに評価できる。
- ・ 文部科学省のスーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール やスーパーサイエンスハイスクール の指定を受け研究する中で、大学等とも連携した専門性の高い授業が展開されつつある。

【課 題】

- ・ 新しい専門高校や特色ある専門学科は、総合学科における特色ある系列や、普通科における特色ある類型 が設置されてきていることを考慮して、量的に拡大することについては慎重に考えた方がいいのではないか。

(4) 各学科の特色化の推進

実施状況

- ・ 普通科のコース については、英語コースと理数コースを国際文化系コースと自然科学系コースに改編し、新たに特色あるコースとして総合人間系コースの設置を進めている。
- ・ コース以外の普通科については、福祉や情報、芸術などの特色ある類型や学校設定科目の設置、高大連携等を推進している。
- ・ 農業、工業、商業、家庭、水産といった職業に関する専門学科においても、森林環境科学科、都市環境工学科、国際ビジネス科、生活科学科、海洋科学科等への学科改編を進めている。

評 価

【成 果】

- ・ コースの改編については、コース設置校へのアンケート結果でも、約 81% の学校が「生徒の学習ニーズに対応できた」と回答するなど、生徒のニーズに対応した教育課程の特色化に向けて、一定の評価ができる。

- ・ 普通科における特色ある類型の設置や、職業に関する専門学科における学科の改編など各学科の特色化を図る中で、体験的な学習や外部の人材の有効活用を通して、生徒の能力を引き出すことにつながっている。

【課 題】

- ・ 普通科のコースの中には、コースを改編してからも定員割れが続いているところがある。
- ・ 普通科については、特色ある類型や学校設定科目の設置など、特色化をさらに進めることが必要ではないか。

(5) 中高一貫教育校の設置

実施状況

- ・ 6年間一貫した計画的・継続的な教育活動ができるメリットを生かして、外国人生徒や帰国生徒を多く受け入れる中等教育学校として、芦屋国際中等教育学校を設置した。

評 価

【成 果】

- ・ 芦屋国際中等教育学校は、国際化に対応した学校としてニーズも高く、その発展が大いに期待される。
- ・ 6年間一貫した計画的・継続的な教育活動により、ゆとりを持って学べるメリットは大きい。

【課 題】

- ・ 国際化に対応した中等教育学校以外にも、たとえば地域に根ざした中高一貫教育校の設置も検討すべきではないか。

2 県立高等学校の望ましい規模と配置

実施状況

- ・ 第一次実施計画では望ましい規模として、普通科では1学年6～8学級、総合学科は4学級以上、郡部における普通科及び職業教育を主とする学科の単独校においては3学級以上と示している。また、分校においては、入学者が募集定員の1/2に満たない状態が3年間続き、その後も生徒数の増加が見込めない時には、原則として翌年から募集停止し本校に統合することとしている。
- ・ この方針に沿って、平成20年度までに、全日制高校の統合を5組（市立高校を除く）実施するとともに、分校1校を本校に統合する。

評 価

【成 果】

- ・ これまで実施した発展的統合は、生徒数が減少する中で、学区内の高校の教育活動の活力を維持することができたことから、有効であったと考えられる。

【課 題】

- ・ 生徒数が減少する中、高校の教育活動の活力を維持するためには、今後も統合や募集停止は避けられないが、その際には交通の利便性や交通費なども考慮する必要がある。

3 入学者選抜制度・方法の改善

実施状況

- ・ 複数志願選抜と特色選抜からなる新しい選抜制度を平成15年度から順次導入しており、平成20年度までに、16学区中6学区(単独選抜4学区、総合選抜2学区)に導入する。
- ・ 新しい選抜制度を導入した学区の高等学校における新入生や保護者のアンケート調査では、約90%が高校生活について「充実している」と答えているなどの結果が得られている。

評価

【成果】

- ・ 新しい選抜制度については、生徒や保護者等へのアンケート結果からみても、学びたいことが学べる学校への志願や、目的意識を持った幅広い学校選択が進んでおり、当初の目的が概ね達成されていると評価できる。
- ・ 特色選抜については、実施した学校におけるアンケート結果からみても、学校生活に積極的に取り組む生徒が増え学校の活性化につながっている。

【課題】

- ・ 複数志願選抜を導入する場合は、ある程度の学校数がないと選択肢の拡大につながらないため、導入が難しい学区があるのではないか。
- ・ すでに導入した学区の中には、第1・第2志望校以外の学校への入学希望が少ない学区もあり、制度の趣旨の徹底がさらに必要ではないか。

4 定時制・通信制高等学校の活性化と望ましい配置

実施状況

- ・ 第一次実施計画では、生涯学習社会に対応した多部制単位制高校を2校設置している。また、その設置と併せて、定時制高校を7校(県立6校、市立1校)募集停止した。
- ・ 第一次実施計画では、入学者が2年間継続して30%に充たず、将来にわたり増加の見込めない学校・学科については統合・改編あるいは募集停止をずとしており、この方針に沿って1学科を募集停止した。

評価

【成果】

- ・ 多部制単位制高校は、午前・午後・夜間に開講していることから生徒のニーズも高く、これまでの定時制高校に学ぶ生徒とともに、多様な生徒のライフスタイルにも対応できる学校として評価できる。
- ・ 多部制単位制高校における入試機会の多さや、多様な生徒にあった受検方法は評価できる。

【課題】

- ・ 第一次実施計画の中にある多部制単位制高校の設置が進んでおらず、さらなる設置を検討すべきではないか。
- ・ 定時制を取り巻く社会状況や、入学してくる生徒が多様化する中で、定時制高校においては、中途退学者や不登校経験者の学び直しの場にもなっていることを考慮する必要があるのではないか。
- ・ 通信制高校には、入学しても単位が取得できず退学する者もいるという状況があるのではないか。

5 その他

○ 意見

【課題】

- ・ ニート やフリーター 、引きこもりなどの問題から、社会的なコミュニケーション能力の育成やキャリア教育 の充実が求められている。しかし、こうしたことに対応していくためには、学校教育だけでなく家庭教育も重要であり、企業の採用をはじめとした社会の問題も影響しているのではないか。
- ・ 保護者が進路希望の実現を学校に期待する構造は基本的に変わっていない一方、学習の動機付けを欠いたまま入学してくる生徒や、学びたいことが見つけられていない生徒への対応を行うことが課題ではないか。
- ・ 多様なニーズに対応していくことも必要であるが、学力の本質を見失わないようにすべきではないか。
- ・ 制度やシステムの改革を進める中で、各学校で教員の意識改革を図る必要があるのではないか。
- ・ 「トライやる・ウィーク」の実績がある兵庫県として、児童生徒の発達段階に応じて勤労や職業に対する考え方をはぐくむとともに、関係機関等とも連携しながら職場体験学習やインターンシップなどの進路に関する啓発的な体験活動の充実を通じて、全国に誇れる体系的なキャリア教育を、小中高が連携しながら創造すべきではないか。

県立高等学校教育改革第二次実施計画（仮称）の方向性

〔県立高等学校教育改革第二次実施計画（仮称）全体の方向性〕

「第二次実施計画」の方向性を考える上では、どのような生徒を育てるのか、そのためにはどのような教育を展開していくのかという観点から、今後の高校教育の在り方について考えておく必要がある。

今後も多様化が進む社会の中では、柔軟な発想のできる生徒、幅広い教養やコミュニケーション能力・問題解決能力等を身に付けた生徒を育てることが求められている。そのためには、各学校において、教育課程における特色ある教育、特色ある特別活動等を通じての学校文化の創造、大学や地域と連携した幅広い教育、生きる力をはぐくむためのキャリア教育等を推進していくことが必要である。

また、高校進学率が97%を超える状況や今後の生徒数の動向等を考慮しつつ、活力ある教育活動を維持し、生徒の多様なニーズに対応した教育を一層進める必要がある。

こうした視点に立って、「第一次実施計画」の評価を踏まえながら、「第二次実施計画」全体の方向性について、次のようにまとめたい。

一点目は、第二次実施計画においても、生徒の個性やニーズに対応し、教育内容を充実させ、バランスのとれた人間の育成をめざす教育を展開するとともに、学びたいことが学べる魅力ある学校づくりを進めることが望ましい。

二点目は、生徒数の減少と市町合併等の社会状況を見極めながら、平成21年度以降の高等学校の望ましい規模と配置の適正化を検討する必要がある。

三点目は、生徒が学びたい学校を選択できる入学者選抜制度・方法の改善を引き続き推進することが望ましい。

四点目は、経済社会情勢の変化や多様な学習ニーズを踏まえて、定時制・通信制高等学校の活性化と望ましい配置について検討する必要がある。

併せて、以下にあげる事柄について、配慮する必要がある。

まずは、生徒数の動向や生徒の希望状況、地域や生徒の実状などを把握しながら、改革を進める必要がある。

また、計画の内容が複雑化せず、県民にも理解しやすいものとするとともに、中学生や保護者等に対して計画の趣旨や内容を十分に周知していく必要がある。

〔今後の高校教育のあり方〕

- ・ 97%を超える中学生が高校に進学する中で、高校教育においては、一人一人の生徒が充実した高校生活を送ることができるよう、生徒の個性を伸ばし、生徒の多様な能力を引き出すことができるような教育内容を創意工夫することが望ましい。
- ・ すべての生徒に基礎・基本の学力を十分保障できる教育課程・内容の工夫・改善や、そのための支援を行うことが望ましい。
- ・ 各高校が切磋琢磨しながら教育活動や学校文化における特色化に努力し、生徒が学びたい学校を選択できるシステムにするとともに、多様で柔軟な発想のできる生徒を育てることが望ましい。
- ・ 学校が生徒の進路希望を意識するあまり、学習の幅が狭くなることがないように、多様化した社会に対応できる「教養ある人間づくり」という視点も重要である。そのためには、大学などの教育機関や地域との連携などによる幅広い教育を推進していくことが望ましい。
- ・ 生徒の学ぶ意欲を育てる教育や、生きる力をはぐくむためのキャリア教育を進めていくことが望ましい。

〔各項目ごとの方向性〕

1 魅力ある学校づくりの推進

（１）総合学科の設置

【方向性】

- ・ 総合学科については、現在の学区数や生徒数からみて妥当な配置状況であり、今後は多様な生徒に対応した学科として、さらにその教育内容の充実を図ることが望ましい。

【配慮すべき事項】

- ・ 既設の総合学科について、特色ある専門科目や学校設定科目の設置、ガイダンス機能の充実など、その教育内容をこれまで以上に充実させる必要がある。
- ・ 総合学科における「産業社会と人間」等での教育実践を、近隣の普通科など他の学科でも活かす取組を考える必要がある。
- ・ 総合学科の仕組みや魅力を、さらに中学生やその保護者に周知・広報することが必要である。

（２）全日制普通科単位制高等学校の設置

【方向性】

- ・ 全日制普通科単位制高校については、特色化を進める一定の役割を果たしており、生徒のニーズや地域ごとの学校数などを考慮しつつ、学校数や生徒数の多い地域においては、さらに設置を検討することが望ましい。

【配慮すべき事項】

- ・ 単位制高校では同一集団での活動が少ないため、人間関係の希薄化が懸念される。そのため、集団的な教育活動の計画的な実施や、生徒の社会性の発達を促す教育活動の重視が望まれる。
- ・ 単位制高校の仕組みや魅力を、さらに中学生やその保護者に周知・広報することが必要である。

(3) 新しい専門高校及び特色ある専門学科の設置

【方向性】

- ・ 新しい専門高校については、すでに情報や福祉などの専門学科に加えて総合学科の系列や普通科の類型も設置されていることから、設置の必要性は少ないと考えられる。
- ・ 特色ある専門学科については、社会や産業構造の変化や生徒のニーズに対応するとともに、第一次実施計画における特色化の進捗状況も踏まえながら、コースを専門学科に改編することなどにより設置を検討することが望ましい。

【配慮すべき事項】

- ・ 新しい専門学科を設置する際には、社会的な要請に基づいているか、生徒のニーズに対応できているか、特定の分野に偏っていないか等を十分把握し、全県的な配置状況も踏まえて検討する必要がある。

(4) 各学科の特色化の推進

【方向性】

- ・ 普通科においては、地域や学校及び生徒の実態に応じてさらに特色ある教育課程の編成を行うとともに、環境、生命科学、福祉、日本文化、芸術、郷土研究などの幅広い分野にわたる特色ある類型の設置や、特色ある類型をコースに改編することなどを検討することが望ましい。
- ・ 職業教育を主とする専門学科については、社会や産業構造の変化を考慮し、地域や生徒のニーズに対応した学科への改編や統合を検討することが望ましい。

【配慮すべき事項】

- ・ 普通科において、生徒のニーズに応じた特色ある教育課程を編成することは重要であるが、高校教育としての基礎・基本の徹底や学びの総合化にも留意する必要がある。
- ・ 普通科のコースの中で、改編したあとも定員割れが続いているところでは、学校全体の将来構想の中で、コースの在り方を検討する必要がある。
- ・ 職業教育を主とする専門学科の改編や統合に当たっては、社会のニーズを踏まえるとともに、全県的な学科の配置バランスや地域の産業との関係を考慮すべきである。
- ・ 各学科の特色化を進めていく中でも、生徒の幅広い進路の可能性を狭めることのないよう、教育課程の工夫やガイダンス機能の充実に配慮する必要がある。

(5) 中高の連携及び中高一貫教育校の設置

【方向性】

- ・ 中学校と高等学校の教員が互いの教育内容や状況を把握し、理解を深めることによって、それぞれの教育活動の充実を図るなど、中高の連携を促進することが望ましい。
- ・ 中高一貫教育校については、郡部における小規模校において中高の連携のもと活性化を図っていくことが必要と考えられる学校を、連携型中高一貫教育校 に改編することを検討することが望ましい。

【配慮すべき事項】

- ・ 連携型中高一貫教育校に改編する際には、地域のニーズがあるか、地域の協力が十分得られるかどうかを把握しておく必要がある。

- ・ 連携型中高一貫教育校をモデルとして、中学校と高校の連携の在り方を研究していく必要がある。

(6) 大学や地域等との連携

【方向性】

- ・ 高校生が大学の講義を受講したり、大学等の教員や研究機関・社会教育施設等の職員が高校で講義する現在の高大連携や高社連携の在り方をさらに発展させ、高校と大学等の双方向での連携の在り方を検討することが望ましい。
- ・ 高校生がボランティア活動や福祉活動等の地域社会に貢献できる取組を行うことや、高校が開設している科目について地域住民にも高校生とともに学ぶ場を提供することなど、地域と連携した教育活動をさらに推進していくことが望ましい。
- ・ 生徒一人一人の職業観・勤労観を育成するために、これまでの取組を一層進め、すべての学科において、インターンシップなどの就業体験や職業体験をさらに推進していくことが望ましい。

【配慮すべき事項】

- ・ 高大連携等を進めていく上では、専門的な学習だけでなく、幅広い教養を身に付けることや生徒の学ぶ意欲を育てることを視野に入れた連携を考えていく必要がある。

(7) 魅力ある教育活動の推進に当たっての視点

【方向性】

- ・ 魅力ある教育活動を推進するためには、以下のことを進めていくことが望ましい。
 - 制度やシステムの改革を推進することと併せて、特色化を推進する上で教職員一人一人が各学校の特色化の推進を自分のこととして受け止め、自らの資質の向上を図るよう、研修の一層の充実などを通じて教職員の意識改革を進めることが望ましい。
 - 生徒の生きる力をはぐくむために、すべての教育活動に当たってキャリア教育の視点に立った取組やコミュニケーション能力の育成を図る取組を一層進めることが望ましい。
 - 幅広い確かな学力を育成するために、各学校で授業研究を行い授業改善を行うことや評価方法の研究などの取組をさらに進めることが望ましい。

【配慮すべき事項】

- ・ 授業改善や評価方法の研究などの取組を進める上では、中学校の教員等参加対象を広げた授業研究の実施、生徒による授業評価を行った授業改善、シラバスの作成によるガイダンス機能の充実、指導目標や指導内容を明確にした評価規準・基準の作成などの取組を進めていく必要がある。

2 県立高等学校の望ましい規模と配置

【方向性】

- ・ 高等学校の規模については、学校教育活動の活力を維持する観点から、「第一次実施計画」で示した考え方を基本としながらも、地域の実情に配慮することが望ましい。
- ・ 少子化に伴う生徒数減少が引き続き見込まれる地域については、小規模校や分校における活性化方策を地域とも連携して十分研究した上で、存続するか、統合又は募集停止するかについて検討することが望ましい。
- ・ 新しい選抜制度の導入に際して、学校数の少ない学区については、学校選択の幅を確保する観点から、近隣学区との統合を視野に入れながら検討することが望ましい。
- ・ 学区については、生徒の希望状況や市町合併、中学校の進路指導に与える影響なども踏まえ、生徒が学びたい学校を選択できるよう、今後その見直しを含めて望ましい在り方を検討していく必要がある。

【配慮すべき事項】

- ・ 統合や募集停止を行う際には、中学校の卒業生数の推移等を踏まえるとともに、通学の利便性等地域性についても十分考慮すべきである。
- ・ 小規模校や分校における存続については、その活性化方策を研究し地域の過疎化への影響にも配慮するとともに、地域における小中高校間の連携、近隣の高校との連携、山村留学制度など、様々な活性化の可能性を検討した上で考える必要がある。
- ・ 新しい選抜制度の導入に際して、学校選択の幅を確保する観点から近隣学区を統合する場合には、中学校の進路指導に与える影響についても配慮する必要がある。

3 入学者選抜制度・方法の改善

【方向性】

- ・ 複数志願選抜と特色選抜からなる新しい選抜制度については、第一次実施計画に引き続き、各学校の個性化・特色化を進めながら、全県的に導入を推進することが望ましい。

【配慮すべき事項】

- ・ 広い地域に学校が点在している学区については、地域の実情を踏まえた工夫を検討する必要がある。
- ・ 新しい選抜制度を導入する際には、制度の趣旨や仕組みについて中学生やその保護者に十分周知・広報を図る必要がある。

4 定時制・通信制高等学校の活性化と望ましい配置

【方向性】

- ・ 生徒の多様な学習ニーズに対応するために、1学年複数学級の多部制単位制高校の設置を、学校数や生徒数の多い地域について、複数の定時制高校の募集停止も視野に入れつつ推進することが望ましい。
- ・ 多部制単位制高校については、午前・午後・夜間の3部制だけでなく、2部制も検討することが望ましい。

【配慮すべき事項】

- ・ 定時制高校の充足率は、経済・社会情勢の変化から高まっている傾向にあり、定時制の募集停止については、全日制高校も含めた県立高校全体の望ましい配置も視野に入れながら、慎重に検討する必要がある。
- ・ 多部制単位制高校の設置や定時制・通信制高校の在り方を考える際には、中途退学者や不登校経験者、障害のある生徒が学んでいることについても、視野に入れて検討する必要がある。
- ・ 多部制単位制高校の設置を考える上では、独立校舎が必要であることも考慮する必要がある。
- ・ 定時制・通信制高校の配置を考える上では、通学時間に対する配慮が必要である。

お わ り に

県立高等学校長期構想検討委員会は、平成１８年８月以来、「県立高等学校教育改革第一次実施計画」の評価・検証とともに、平成２１年度以降の「第二次実施計画」の方向性について協議を重ねてきた。

その結果、当検討委員会では、「第一次実施計画」は概ねその成果が上がっていることを評価し、平成２１年度以降についても「第一次実施計画」で示した４つの視点を踏まえるとともに、今後の高校教育の在り方を視野に入れつつ、その改善・充実を図ることに配慮しながら、「第二次実施計画」を考えていく必要がある、との考えを示した。

県教育委員会においては、この報告を踏まえ、各関係方面・機関等とも連携を図りながら引き続き「第二次実施計画」を策定し、高校教育改革を着実に推進されるとともに、その実現に向けた施策の展開や施設・設備の充実など、財政措置を含めた必要な支援を講じられるよう要望する。

本県の高校教育をさらに充実・発展させていく中で、多様化が進む社会に対応できるよう、生徒一人一人が柔軟な発想ができ、幅広い教養やコミュニケーション能力、問題解決能力を身に付けた人間として育っていくことを期待している。

なお、当検討委員会では、平成１８年３月に障害児教育の在り方検討委員会が提言した「本県の障害児教育の現状と今後の在り方」の中に示された、高等学校における特別支援教育の方向を踏まえた対応を研究することや、高校中退者の問題、不登校生徒の問題、授業料減免者がやや増えている問題などの意見が出されたことも付言しておく。

《用 語 解 説》

本文中に 印をつけた用語についての解説

○ 総合学科

普通科、専門学科に続く第三の学科として、平成6年度に創設された。体験的で課題解決的な学習を行う原則履修科目「産業社会と人間」等を通して将来の生き方や進路を考えながら、普通科目と専門科目にわたる幅広い選択科目の中から、興味・関心、進路希望等に応じて自分で科目を選択して学ぶことができる。

○ 単位制高校

学年の区分がなく、入学から卒業までに決められた単位を修得すれば卒業できる高校を単位制高校という。単位制高校は、昭和63年度から定時制・通信制課程に、平成5年度からは全日制にも導入された。

生徒自らの学習計画に基づき、興味・関心、進路希望や学習の習熟の程度に応じて科目を選択し学習することから、生徒の多様な教育ニーズに応えとともに、意欲的な学習を促進することができる。総合学科は原則単位制高校である。

○ 多部制高校

複数の部を設置し、生徒が仕事や生活の環境などのライフスタイルに合わせ、いずれかの部に所属して学べる学校。現在設置している西宮香風高校と飾磨工業高校では、学習する時間帯として、午前（1部）、午後（2部）、夜間（3部）の3つの部がある。

○ 連携型中高一貫教育校

既存の市町立中学校と都道府県立高等学校が、教育課程の編成や教員・生徒間交流等の連携を深める形で中高一貫教育を実施するもの。連携型高等学校における入学者選抜は、連携中学校については調査書及び学力検査以外の資料により行うことができる。

なお、中高一貫教育校には、連携型以外に、一つの学校として一体的に中高一貫教育を行う「中等教育学校」、同一設置者による中学校と高等学校を接続し、中等教育学校に準じて中高一貫教育を行う「併設型中高一貫教育校」がある。

○ 類型

生徒の進路希望や興味・関心等に応じて、系統的に教科・科目が選択できるよう科目の望ましい配列を校内的に設けたもの。普通科では、従来からある文系、理系以外にも、芸術類型、生命科学類型、福祉類型等の特色ある類型を設置している学校もある。

○ コース

普通科における類型の一つであるが、入学時に定員を区分して（40人）すべて推薦入試で募集する。現在、国際文化系コース、自然科学系コース、健康福祉系コースの3種類のコースがあるが、平成19年度からは新しく総合人間系コースを設置する。

○ 複数志願選抜

平成15年度から導入した新しい選抜制度。次の特色がある。

個性や能力に応じて学校を選択し、1校または2校を志願できる。

第1志望を優先するため、第1志望校には一定の加算点を加えて合否判定を行う。

出願時に希望していれば、第1・第2志望校がどちらも不合格の場合でも、総合得点によっては、いずれかの公立高校に合格できる。

- 特色選抜

平成15年度から複数志願選抜と併せて導入した新しい選抜制度。複数志願選抜を実施する学校のうち、特色化の進んだ学校で、その特色に応じて受検生のさまざまな個性や能力を多面的に評価する。各学校において面接を実施する。学校によっては、実技検査、小論文（作文）を実施する場合もある。

- 学校文化

地域の伝統行事を取り入れた学校行事や、特色ある文化・スポーツ活動、国際交流に関わる活動、生徒会活動や部活動など、その学校独自の特色ある教育活動を推進し、またそのような体験を共有することにより、同じ学校で共に学んだもの同士に共通のアイデンティティーが生まれ、それが引き継がれることで形成されていく学校の特色（文化）

- キャリア教育

＜中央教育審議会答申（平成11年12月）における定義＞

望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育

＜キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議答申（平成16年1月）における定義＞

児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育

（キャリアとは、個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値観の累積）

- インターンシップ

生徒が産業の現場などで、自らの学習内容や将来の進路などに関連した就業体験をすること。学習への意欲を高め、職業観・勤労観を育てるとともに、異世代とのコミュニケーション能力を高めるなどの効果が期待できる。

- ニート

通学（Education）も仕事（Employment）もしておらず、職業訓練（Training）も受けていない人々。（Not in Education, Employment, or Training の頭文字をとってNEET）

- フリーター

15歳～概ね34歳までの若年者の中で、アルバイトやパートタイマーなどの就労形態で働き、生計を立てている者のこと。ただ、最近では、中高年齢層が増えるなどして高齢化しており、年齢での区分が形骸化している。

- スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール

英語教育を重点的に行う文部科学省の研究指定校。英語教育を重視したカリキュラムの開発、一部の教科を英語によって行う教育、大学や海外姉妹校との効果的な連携方策等についての実践的研究を行っている。

- スーパーサイエンスハイスクール

科学技術、理科・数学教育を重点的に行う文部科学省の研究指定校。将来有為な科学技術系人材の育成に資することを目的とし、理科・数学に重点を置いたカリキュラムの開発、大学や研究機関等との効果的な連携方策等についての実践的研究を行っている。

○ 高大連携等推進事業

生徒の学習ニーズに応じた学習の機会を拡大する観点から、大学や社会教育施設での学習の機会を提供することにより、高校生の知的好奇心を刺激し、自ら学び自ら考える力の育成を目指して現在兵庫県で進めている事業。連携の在り方は下の２種類ある。なお、現在県教育委員会と県内の１３大学が連携協定を結んでいる。

高大連携 高等学校と大学の連携

高社連携 高等学校と社会教育施設（博物館等）との連携

○ 高校生地域貢献事業 —トライやる・ワーク—

高校生が、地域社会に貢献できる取組を企画し、地域社会の力となる活動を実施して、高校生の地域社会に対する参画意識を高めるとともに、社会性や自主性など豊かな人間性をはぐくむことを目指して現在兵庫県で進めている事業。具体的には、次のような内容を推進している。

地域貢献活動

クラス単位でのボランティア活動やグループでの福祉活動等、以下のような学校独自の企画による活動。

〔文化・芸術・スポーツ振興活動、保健・福祉増進活動、地域安全活動、環境保全活動、まちづくり推進活動、社会教育推進活動、災害復旧活動〕

地域に開かれた学校づくり

オープン・ハイスクールや、海外姉妹提携校からのホームステイ生徒との交流活動等

○ 高校生就業体験事業 —インターンシップ推進プラン—

高校生が産業の現場などで学習内容や進路に関連した就業体験を実施し、生徒が自己の将来の在り方・生き方について考え、目標を持って主体的に進路選択ができるようにするとともに、生徒に夢を実現する力を身に付けさせることを目指して現在兵庫県で進めている事業。具体的には次のような内容を実施している。

生徒自らが将来の職業や将来設計を考えるための卒業生や職業人等の講話

企業訪問や職業体験施設等を活用した職業体験

学習内容や専門分野における知識・技能の深化を目指したインターンシップ（就業体験）

○ 理数教育推進事業 —ダ・ヴィンチ・プラン—

児童生徒の理科及び算数・数学に関する興味・関心を喚起し、小・中・高等学校を通じた総合的な理科及び算数・数学教育の充実を図ることを目指して現在兵庫県で進めている事業。具体的には次のような内容を実施している。

理数ワンダーランド

講演会や学校でできない観察・実験や数学・科学ショー等を披露する総合的なイベント

数学・理科甲子園

数学、理科、科学技術等に興味のある高校生の意欲と能力をさらに高めるためのコンテスト

数学、理科教材・教具コンテスト

生徒の興味・関心を喚起し、理解を支援するために有効な教材・教具やその活用法についてのコンテスト

算数・数学、理科教員研修講座

小中高等学校の教員を対象とし、理科及び算数・数学教育に係わる授業方法等の研修を行う。

《県立高等学校長期構想検討委員会審議経過》

	開催期日 (開催場所)	協議等の内容
第1回	平成18年 8月10日(木) (兵庫県民会館)	○「県立高等学校教育改革第一次実施計画」の評価及び 「県立高等学校教育改革第二次実施計画」(仮称)の 方向性についての全体的な意見交換
意見聴取	9月	○「県立高等学校教育改革第一次実施計画」の評価及び 「県立高等学校教育改革第二次実施計画」(仮称)の 方向性についての各委員の意見の聴取
第2回	10月31日(火) (県立武庫荘総合高校)	○県立武庫荘総合高校(総合学科)の授業及び施設見学 ○各委員の意見聴取をもとにして、「県立高等学校教育改革第一次実施計画」の評価及び「県立高等学校教育改革第二次実施計画」(仮称)の方向性についての各項目ごとの協議
第3回	11月20日(月) (兵庫県民会館)	○第1回・第2回の協議を踏まえて事務局でまとめた、 「県立高等学校教育改革第一次実施計画」の評価(素案)及び「県立高等学校教育改革第二次実施計画」(仮称)の方向性(素案)についての各項目ごとの協議
第4回	12月25日(月) (兵庫県民会館)	○第3回の協議を踏まえて素案を修正した形で事務局で作成した報告(素案)についての協議

県立高等学校長期構想検討委員会設置要綱

(設置)

第1条 県立高等学校教育改革第一次実施計画の評価・検証を行うとともに、平成21年度以降の県立高等学校教育改革第二次実施計画(仮称)の方向性を検討するため、県立高等学校長期構想検討委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次の事項を所掌する。

- (1) 県立高等学校教育改革第一次実施計画の評価・検証に関すること
- (2) 平成21年度以降の第二次実施計画の方向性の検討に関すること
- (3) その他、県立高等学校の長期構想を検討するために必要な事項に関すること

(委員)

第3条 委員会は22名以内の委員で組織する。

2 委員は、教育又は教育行政に関し高い識見を有する者のうちから教育長が委嘱する。

(委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は委員の互選によって定め、副委員長は委員長が指名する。

2 委員長は会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときはその職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議(以下「会議」という。)は、委員長が招集する。

2 委員は、事故その他のやむを得ない理由により会議に出席できないときには、あらかじめ委員長の承認を得て、代理人を出席させることができる。

3 委員長は必要があると認めたときは、委員以外の者に会議への出席を求め、その意見を聞くことができる。

(謝金)

第6条 委員が会議の職務に従事したときは、別に定めるところにより、謝金を支給する。ただし、県職員(学識経験者として就任する大学教育職の県職員を除く)及び県費負担教職員にあっては支給しない。

2 第5条第2項の規定に基づき、代理人が会議に出席したときは、代理人に対して委員と同額の謝金を支給する。

(旅費)

第7条 委員が会議の職務を行うために、会議に出席したときは、別に定めるところにより、旅費を支給する。旅費の額は、職員等の旅費に関する条例(昭和35年兵庫県条例第44号)に基づき支給する。ただし、県職員(学識経験者として就任する大学教育職の県職員を除く)及び県費負担教職員である委員については、当該職員の職務の扱いに基づく額とする。

2 第5条第2項の規定に基づき、代理人が出席したときは、代理人に対して旅費を支給する。この場合において、代理人の格付けは委員本人と同様とする。ただし、県の職員及び県費負担教職員である代理人については、当該職員の職務の級とする。

(庶務)

第8条 委員会の関する庶務は、高校教育課において行う。

(補則)

第9条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は教育長が別に定める。

附 則

1 この要綱は、平成18年8月10日から施行する。

2 この要綱は、平成19年3月31日をもって効力を失う。

3 この要綱の施行の日以後最初に開かれる会議は、第5条第1項の規定にかかわらず、教育長が招集する。

県立高等学校長期構想検討委員会委員

区 分		氏 名	所 属 ・ 職 名
学識経験者 < 5 名 >		天野 明弘	兵庫県立大学副学長
		梶田 叡一	兵庫教育大学長
		桂 正孝	宝塚造形芸術大学教授
		長瀬 荘一	神戸女子短期大学副学長
		渡邊三枝子	筑波大学特任教授
各界代表等 5 名	県 議 会	小田 毅	県議会文教常任委員会委員長
	経 済 界	池田 志朗	県経営者協会会長（川崎重工業顧問）
	労 働 界	田治米政美	日本労働組合総連合会兵庫県連合会会長代理
	マスコミ	糸野 清明	神戸新聞論説委員
	私立中学高等学校	西門 義博	県私立中学高等学校連合会理事長（三田学園理事長）
行 政 < 2 名 >		小川 雄三	都市教育長協議会長（神戸市教育長）
		圓尾 哲一	町村教育長会長（太子町教育長）
学 校 関 係 者 10 名	P T A	松下 敬幸	県立高等学校 P T A 連合会長(県立長田高校 P T A 会長)
		内藤美佐子	県 P T A 協議会理事（西宮市 P T A 協議会長）
	校 長	藤井 修	県立高等学校長協会会長（県立長田高校長）
		伊藤 正幸	市立高等学校長会長（神戸市立兵庫商業高校長）
		岸本 芳信	県立高等学校長協会工業部会長（県立兵庫工業高校長）
		稲垣 明	県立高等学校長協会定通部会長（県立神崎工業高校長）
		岸野 建陽	県中学校長会長（神戸市立横尾中学校長）
		江原 礼子	県小学校長会代表（伊丹市立緑丘小学校長）
	教 員	田中 章愛	県立香寺高校教諭
		塚田 良子	三田市立ゆりのき台中学校教諭

資 料

○ 県立高等学校教育改革の推進状況について	23
○ 学区別高等学校教育改革の推進状況（平成20年度予定）	24
○ 全日制高等学校における特色ある学校・学科の設置	25
○ 入学者選抜制度・方法	26
○ 平成18年度全日制高等学校の募集学級数による規模別学校数	27
○ 公立全日制高等学校募集学級数の推移	28
○ 県内の国・公立中学校卒業（見込）者数の推移	29
○ 新しいタイプの学校等に係る調査結果	30
○ 新しいタイプの学校や特色ある学科に関する調査集計結果	35
○ コース設置校に係る調査結果	41
○ 平成18年度入学者選抜における複数志願選抜及び特色選抜の検証結果について	46
○ 高校生活に関するアンケート（神戸第三学区における複数志願選抜及び特色選抜で入学した3年生生徒対象）	63
○ 神戸甲北高校実施の総合学科卒業生に関するアンケート集計結果より	64

改編等	第一次実施計画の考え方	前 期			後 期				現在の進捗状況		
		12	13	14	15	16	17	18		19	20
単位制への改編 全日制普通科	・原則として県下7地域に各1校。 ・学校数や生徒数が多い地域については複数校に設置。	(既設) 全日・H6尼崎稲園 定時・H6姫路北 通信・青雲・網干	H6三田祥雲館	北須磨 三田祥雲館	姫路東 (国際、飾磨工業)	・未設置の地域への設置を積極的に推進。 ・生徒数が多い地域については複数校の設置を検討。 ・但馬地域と淡路地域については学校数や配置状況、地理的状況等を勘案しながら検討	芦屋 (六甲アイランド)	加古川北		7校(県立6)	
総合学科の設置	・原則として普通科の学区に各1校。 ・生徒数や学区の範囲において大規模な学区については複数校に設置。	伊丹北 有馬 (既設) H9 H10 淡路 H11 和田山	加古川南	須磨友が丘	武庫荘・武庫工業 → 武庫荘総合 豊岡南・豊岡実業 → 豊岡総合	・未設置の地域への設置を積極的に推進。 ・学校数の少ない宝塚学区、神戸第一学区への設置及び伊丹学区、加印学区、姫路・福崎学区への複数配置は見合わせる。 ・神戸第三学区は神戸市教委と協議しつつ設置を検討		三木東	西宮今津 明石南 太子	14校(12年度までに4校)	
その他の新設・改編等	・国際高校、情報高校等の新しい専門高校、環境防災科、生命科学科等の新しい専門学科の設置。			舞子 (環境防災科)	芦屋国際中等教育学校 国際(国際科) 尼崎小田(理数コース → H(理)財(才)科) 明石西(英語コース → 国際人間科)	・新しい専門高校の設置の必要性については引き続き検討。 ・特色ある専門学科の設置を引き続き推進 ・中高一貫教育についても引き続き検討	コース改編による専門学科の設置 洲本実業 国際リソート科・国際ビジネス科 (市西宮 理数コース・グローバル・サイエンス科) 神戸高校 総合理数コース・総合理学科				
生涯学習に対応した単位制高等学校(多部制)	・平成13年度に西宮市に設置した後、西播磨地域及び神戸地域へ各1校を設置。さらに、阪神地域に工業教育の単位制高等学校を設置。あわせて近隣定時制高等学校を統合又は募集停止。		西宮春風 ↑ (神戸・尼崎・芦屋市内県立3校、西宮市立1校定時制高校募集停止)		飾磨工業 ↑ (姫路市内県立定時制3校募集停止)	・神戸地域への設置及び阪神地域への工業教育を可能とする単位制高校の設置について、関係市教委と協議しつつ引き続き検討				2校	
統合・改編	・学級数の減少により学校規模が小さくなった時には学校規模を大きくすることにより多様な教科・科目の設置や弾力的な随修が可能になるなど、学校教育活動の活性化を目指すした教育的観点から近隣校等と統合を行うこととする。	H10 六甲アイランド	(神戸・尼崎・芦屋市内県立3校、西宮市立1校定時制高校募集停止)		武庫荘・武庫工業(発展的統合) 豊岡南・豊岡実業(発展的統合) (姫路市内県立定時制3校募集停止)	・神戸第一学区、西宮学区及び伊丹学区の中学校卒業予定者は平成20年度以降には増加が見込まれるため、学区内の発展的統合の計画を見直す必要がある。 ・神戸第三学区については、神戸市教委と協議しつつ検討	神戸工業 ↑ 土木科募集停止 (科学技術(全) 神戸工科(定) (神戸市立工業全日2、定2校)	H17市芦屋募集停止 H19閉校 鈴蘭台・鈴蘭台西(発展的統合) 三原・志知(発展的統合) 三原・志知(発展的統合) 三原・志知(発展的統合)	龍野実業 ・新宮 (発展的統合) 21年度 市尼崎工業・市尼崎東(発展的統合)	全日制統合8組(県立5組・私立3組)、募集停止市立1校 定時制統合3組(県立2組・私立1組)、募集停止市立1校	
分校化	・すべての学年が1学級となった学校は近隣校の分校とする。呼称については、学校の活性化の観点から「○○高校□□校」とする。 ・分校において、入学者が募集定員の2分の1に満たない状態が3年間続き、その後も生徒数の増加が見込まれない時には、原則として翌年から募集を停止し本校に統合する。	現在の分校 7校	温泉高 → 浜坂高温泉校 (八幡高校大屋校 篠山産業高校東豊校、丹南校 洲本実業高校東浦校 淡路高校一宮校 浜坂高校通泉校 川西高校玉塚元校(定)				H17温泉校募集停止 H19閉校			1校	
新しい選抜制度 (複数志願選抜 特色選抜)	・平成15年度に大規模学区から導入する。 ・学校の個性化・多様化の進捗状況、地域の意見を参考にしながら順次導入。			神戸第三学区		・単独選抜の学区については大規模学区から導入する。 ・その他の学区においては、学校の個性化・多様化の進捗状況や地域の意見を参考にしながら順次導入。	姫路・福崎学区	加印学区	北播学区	尼崎学区 明石学区	6学区
個性化・多様化の推進	・既存の英語・理数コース置校についてはその意義や実績、生徒の希望状況等を踏まえた検証と将来構想を尊重しつつ、生徒の在り方、生き方を基本に据えた新しいコースへの改編、または廃止について検討する。 ・現在コースを設置していない学校にあっては地域や生徒の実情を踏まえ、特色ある類型を設置して研究と実践を進めていくこととする。				国際文化系コース 14校 自然科学系コース 24校 (健康福祉系コース) 1校	・地域や生徒の実情を踏まえた特色あるコースや類型の設置を引き続き推進する。				総合人間系 コース1校 (御影)	

学区別高等学校教育改革の推進状況（平成20年度 予定）

7 地域		神戸			阪神			丹有		東播磨			西播磨		但馬		淡路	
10教育事務所		神戸			阪神南			阪神北（三田）		東播磨		北播磨		中播磨		西播磨		淡路
通学区域 学校数（分校含む。中等教育学校含まない） 普通科（単位制含む）	神戸二	神戸三	神戸一・芦屋	尼崎	西宮	宝塚	伊丹	丹有	明石	加印	北播	姫路・福崎	西播	北但	南但	淡路		
	8	1 2	8	1 0	8	4	8	1 1	7	1 1	1 2	1 7	1 2	6	6	7		
	5	1 0	6	7	7	4	7	7	5	8	8	1 3	8	4	4	3		
	神戸甲北	須磨友が丘		武庫社総合	西宮今津		伊丹北	有馬	明石南	加古川南	三木東	香寺	太子	豊岡総合	和田山	淡路		
個性・多様化	総合学科																	
	全日制普通科単位制高校		芦屋市・六甲市	尼崎福園				三田祥雲館		加古川北		姫路東						
	生涯学習社会に対応した単位制高等学校				西宮香風							飾磨工業						
	職業に関する学科		工商	工	工商	商		商	農工商	農工商家	農工商家	工商	農工商家福看	農工商家	農工商家	農工商家		
多様化	特色ある専門学科		・環境防災	・国際 ・総合理學	・サイエンス ・体育	・音楽 ・演劇			・国際人間 ・美術		・体育	・国際文化						
	自然科学系コース				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	国際文化系コース		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
	健康福祉系コース											○						
中高一貫教育	総合人間系コース			○														
				芦屋国際														
入学者選抜制度	単独選抜	複数志願	単独選抜	総合選抜	総合選抜	総合選抜	総合選抜	単独選抜	複数志願	複数志願	複数志願	複数志願	単独選抜	連携校	連携校	単独選抜		
	緑台 緑台西	市・御影工 市・神戸工	武庫社 武庫工業						複数志願	複数志願	複数志願	複数志願	複数志願	豊岡南 豊岡工業	豊岡南 豊岡工業	三原 三知		

全日制高等学校における特色ある学校・学科の設置

1 新しいタイプの高等学校

区 分	平成6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
総合学科 ()は改題前の 学科				神戸甲北 (普) 香 寺 (普・家)	淡 路 (普・農)	和田山 (商)	伊丹北 (普) 有 馬 (普・農)	加古川南 (普)	須磨友が丘 (普)	武庫荘総合 (普と工) 豊岡総合 (普と工・商)			三木東 (普)	西宮今津 (普) 明石南 (普) 太 子 (普)	
全日制単位制 普通科	尼崎福岡								北須磨 三田祥雲館	姫路東		県芦屋 市六甲イグランド	加古川北		
全日制単位制 専門学科										国 際 飾磨工業					
生涯学習社会に 対応した単位制高校								西宮香風 (普通科)		飾磨工業 (工業科)					
総合選択制					市六甲イグランド (普通科)										

2 特色ある学科等

区 分	昭和54年 以前	昭和55年 ～ 昭和59年	昭和60年 ～ 昭和63年	平成元年 ～ 平成5年	平成6年 ～ 平成10年	平成11年 ～ 平成15年	平成16年 ～ 平成19年
普通科			理数コース (29校) 英語コース (21校)		総合選択制 (市六甲イグランド)	自然科学系コース (22校) 国際文化系コース (13校) 健康福祉系コース (1校)	総合人間系コース (1校)
専 門 学 科	職業教育を 主とする 学科	情報科学 (姫路商)	電子機械 (姫路工) 情報 (神戸商) 会計 (神戸商) 情報技術 (兵庫工) 情報・繊維 (西脇工) 情報処理 (市神港) 生物工学 (農業)	福祉 (新宮) 水産食品 (香住)	福祉 (日高) 国際経済 (西宮、小野、 市兵庫商) 国際リポート (洲本実業) 生活情報 (西脇)	人と自然 (有馬) 看護 (新宮、日高)	国際ビジネス (洲本実業)
	その他	体育 (社) 音楽 (西宮) 美術 (明石) 国際文化 (芦屋南)	演劇 (宝塚北) 英語 (市琴丘)		総合科学 (姫工大附)	国際 (国際、市豊合) 国際人間 (明石西) 国際文化 (市琴丘) 環境防災 (舞子) サピエンス (尼崎小田) グローバルビジネス (市西宮)	総合理学 (神戸)

入 学 者 選 抜 制 度 ・ 方 法

1 全日制高等学校普通科の通学区域及び選抜制度(平成 20 年度募集分)

通学区域	学校数 (普通科単位制を含む)	所属区域(自由学区 所属区域の学区の高等学校以外を志望できる区域を除く)	選抜制度	
神戸第一・芦屋	6	東灘区 灘区 中央区 兵庫区のうち神戸生田中及び楠中の区域 芦屋市	単独選抜	
神戸第二	5	兵庫区(神戸第一学区の所属区域を除く) 北区 長田区(神戸第三学区の所属区域を除く) 須磨区のうち雲雀丘中の区域		
神戸第三	10	長田区のうち西代中、高取台中及び太田中の区域 須磨区(神戸第二学区の所属区域を除く) 垂水区 西区	複数志願選抜 全日制単位制を除く	
尼 崎	7	尼崎市		
西 宮	8	西宮市	総合選抜	志望優先率
宝 塚	4	宝塚市		10%
伊 丹	7	伊丹市 川西市 川辺郡		35%
丹 有	7	三田市 篠山市 丹波市	単独選抜	
明 石	5	明石市	複数志願選抜 全日制単位制を除く	
加 印	8	加古川市 高砂市 加古郡		
北 播	8	西脇市 三木市 小野市 加西市 加東市 多可郡		
姫路・福崎	13	姫路市 神崎郡		
西 播	8	相生市 たつの市 赤穂市 宍粟市 揖保郡 赤穂郡 佐用郡	単独選抜	
北 但	5	豊岡市 新温泉町 香美町のうち香住区の区域	連携校 方式	連携以外の中学校から6%
南 但	3	朝来市 養父市 香美町のうち小代区及び村岡区の区域		連携以外の中学校から5%
淡 路	3	洲本市 南あわじ市 淡路市	単独選抜	
単独選抜 : 学校ごとに各校が単独で選抜を行い、合格者を決定する。				
総合選抜 : 学区内の総募集定員の人数を合格者とし、そのうち、各校の志願者で成績上位の者から順に、志望校優先率によって、それぞれの合格者を決定する。残りの合格者については、居住地等を勘案して、それぞれの学校の合格者を決定する。 明石地区は、合格者全員の成績が均等になるようにそれぞれの合格者を決定する。				
連携校方式 : 各学校ごとに定められた連携中学校の生徒を対象に合格者を決定することを原則とするが、連携中学校以外の中学校からは6%又は5%以内の比率で合格者を決定することができる。				
複数志願選抜 : 学区内において2校まで志願することができ、第1志望を優先にして合格者を決定する。また、第1志望、第2志望に合格しなかった場合でも総合得点によっては、希望すればいずれかの公立高等学校に合格することができる。				

2 全日制高等学校の入学者選抜方法(平成 19 年度募集分)

区 分			選抜方法(募集割合)	通学区域
普通科	国際文化系コース、自然科学系コース、総合人間系コース、健康福祉系コース		推薦入試(100%以内)	普通科の学区
	単位制高校		推薦入試(尼崎稲園は 100%以内、それ以外は 50%以内)	県下全域
			一般入試(推薦合格者以外)	普通科の学区
	上記以外		特色選抜(15%以内。ただし 40 人は越えない) 一般入試(特色選抜実施校は特色選抜合格者以外)	普通科の学区
専門学科	体育、音楽、美術、国際、演劇等		推薦入試(100%以内)	県下全域
	上記以外	農業、工業、水産等	推薦入試(30～50%以内) 一般入試(推薦合格者以外)	
		商業、家庭		県立は県下全域 市立は商業の学区
総合学科			推薦入試(50%以内)	県下全域
			一般入試(推薦合格者以外)	普通科の学区

平成19年度全日制高等学校の募集学級数による規模別学校数

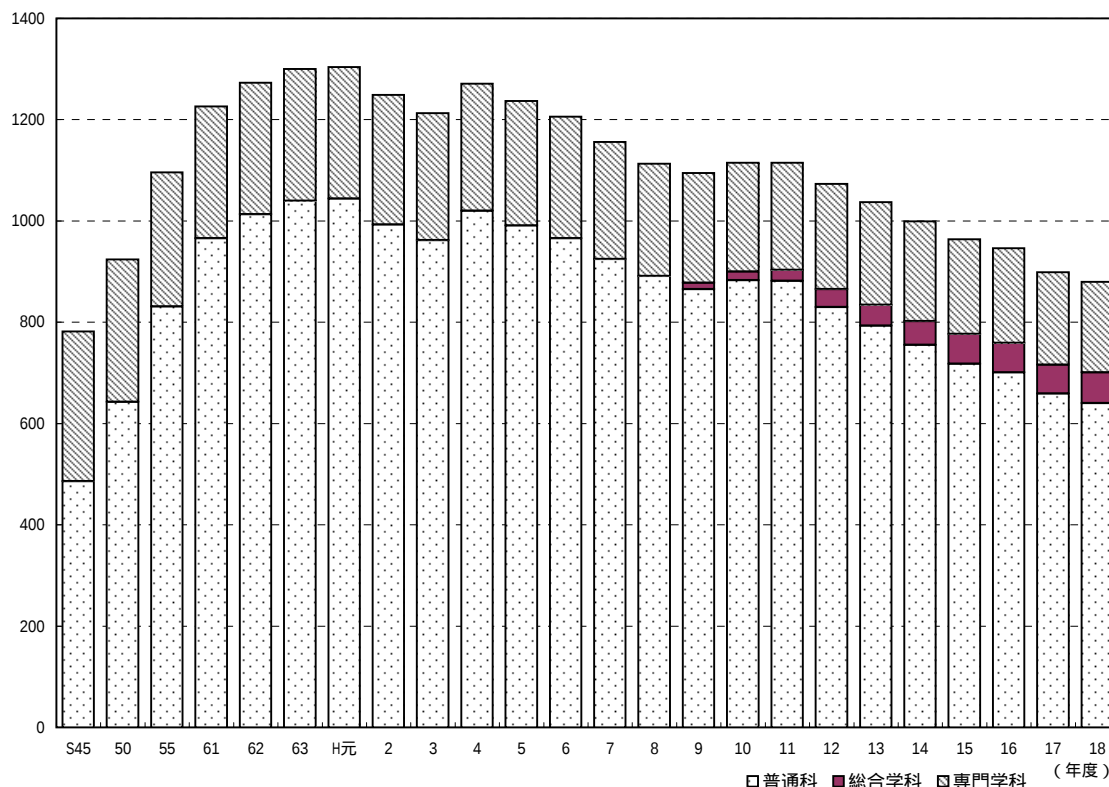
学級	神戸第一	神戸第二	神戸第三	尼崎	西宮	宝塚	伊丹	丹有	明石	加印	北播	姫路・福崎	西播	北但	南但	淡路
10	市科技															
9	神戸市六甲アイランド				県西宮				明石北明石西							
8	芦屋市影合	兵庫工 神戸鈴蘭台	長田 星陵	尼崎稲園 武庫荘総合 市尼崎		宝塚北	県伊丹 伊丹西	有馬 北摂三田 三田西陵 三田祥雲館	明石城西 明石清水 市明石商	加古川東 加古川西 農業	小野脇 西三木	龍野				
7		兵庫	神戸高塚 舞子 須磨東 伊川谷北 神戸商業	尼崎北	尾崎 市西宮		川西緑台 川西北陵	柏原 篠山鳳鳴 篠山産	明石南	加古川北 高砂南 高砂南 東播磨南 東播磨工業	三木北 社	姫路東 姫路西 姫路工業 市飾磨 市姫路 市琴丘	赤山 穂崎			淡路三原
6		神戸甲北 夢野台 市神港 市兵庫商	須磨友が丘 北須磨	尼崎小田 県尼崎	西宮今津 市西宮東	宝塚東	伊丹北 川西明峰 市伊丹			加古川南 松陽	三木東 西脇工業 北条	姫路南 姫路商業 福崎	相生用 郡相佐上	豊岡総合		洲本
5	東灘	神戸北	市神戸西 市須磨	尼崎西 尼崎工業 市尼崎東 市尼崎産	西宮南	宝塚西					小野工業	姫路別所 姫路飾西 網香 飾磨工業	龍野実業 相生産子 相太		八鹿	津名 洲本実業
4					西宮北 西宮甲山		猪名川	氷上			多可		県立大附	石住坂 出香浜	生野	
3	国際										播磨農業 吉川	夢前	新宮		和田山 但馬農業	淡路
2												神崎	伊和	日高	村岡	
1								氷上西 篠山産業東雲(分) 篠山産業丹南(分)				家島	千種		八鹿大屋(分)	洲本実業東浦(分) 淡路一宮(分)
本校数	8	8	12	10	8	4	8	9	7	11	12	17	13	6	5	5
学校数	8	8	12	10	8	4	8	11	7	11	12	17	13	6	6	7

学校数では分校を含む

(分)は分校

公立全日制高等学校募集学級数の推移

(学級数)

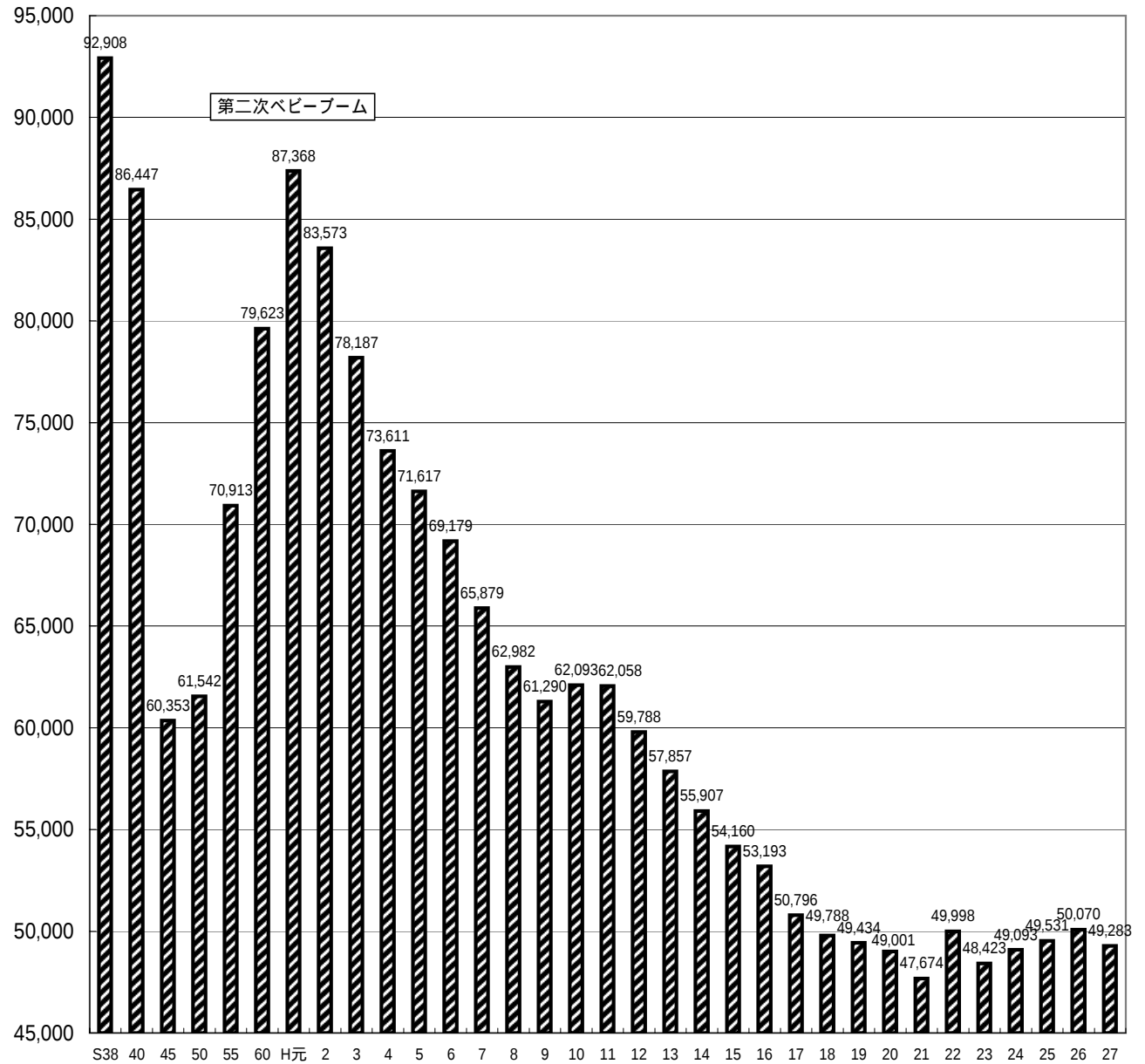


年 度	S45	50	55	61	62	63	H元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
普 通 科 (学 級 割 合)	486	643	831	966	1013	1040	1044	993	962	1020	991	966	925	891	865	883	882	830	793	755	718	701	659	640
	62.1	69.6	75.8	78.8	79.6	80.0	80.1	79.5	79.3	80.3	80.1	80.1	80.0	80.1	79.0	79.2	79.1	77.4	76.5	75.6	74.5	74.1	73.3	72.7
総 合 学 科															13	17	21	35	41	47	59	58	57	61
															1.2	1.5	1.9	3.3	4.0	4.7	6.1	6.1	6.3	6.9
農業に関する学科	53	49	40	33	33	33	33	32	32	32	32	31	31	31	31	28	28	26	26	26	26	26	26	25
	6.8	5.3	3.6	2.7	2.6	2.5	2.5	2.6	2.6	2.5	2.6	2.6	2.7	2.8	2.8	2.5	2.5	2.4	2.5	2.6	2.7	2.7	2.9	2.8
水産に関する学科	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
工業に関する学科	109	104	100	100	100	100	100	100	99	98	96	95	90	85	84	88	87	87	85	81	71	71	69	69
	13.9	11.3	9.1	8.2	7.9	7.7	7.7	8.0	8.2	7.7	7.8	7.9	7.8	7.6	7.7	7.9	7.8	8.1	8.2	8.1	7.4	7.5	7.7	7.8
商業に関する学科	91	92	89	90	90	90	90	88	85	86	84	78	75	71	70	66	64	63	59	58	55	54	52	49
	11.6	10.0	8.1	7.3	7.1	6.9	6.9	7.0	7.0	6.8	6.8	6.5	6.5	6.4	6.4	5.9	5.7	5.9	5.7	5.8	5.7	5.7	5.8	5.6
家庭・福祉に関する学 科	35	29	29	24	24	24	24	23	22	22	21	19	18	18	15	15	15	12	12	12	12	12	12	12
	4.5	3.1	2.6	2.0	1.9	1.8	1.8	1.8	1.8	1.7	1.7	1.6	1.6	1.6	1.4	1.3	1.3	1.1	1.2	1.2	1.2	1.3	1.3	1.4
看護に関する学科	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	2	2	2	2	2
	0.5	0.4	0.4	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
英語に関する学科				2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	0	0	0	0
				0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
体育・音楽・美術 演劇に関する学科	2	1	1	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	6	6	6	6	6	6	6
	0.3	0.1	0.1	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.4	0.4	0.4	0.4	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.7	0.7
国際文化に関する学 科				1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	0	0	0	0
				0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
国際に関する学科																			2	2	7	7	7	7
																			0.2	0.2	0.7	0.7	0.8	0.8
理数に関する学科																					1	2	2	2
																					0.1	0.2	0.2	0.2
環境防災に関する学 科																				1	1	1	1	1
																				0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
総合科学に関する学 科												4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
												0.3	0.3	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.5
合 計	782	924	1096	1226	1273	1300	1304	1249	1213	1271	1237	1206	1156	1113	1095	1115	1115	1073	1037	999	964	946	899	880

(注) 端数四捨五入のため、合計が100%にならない場合がある。

県内の国・公立中学校卒業(見込)者数の推移

(H22以降は推計)

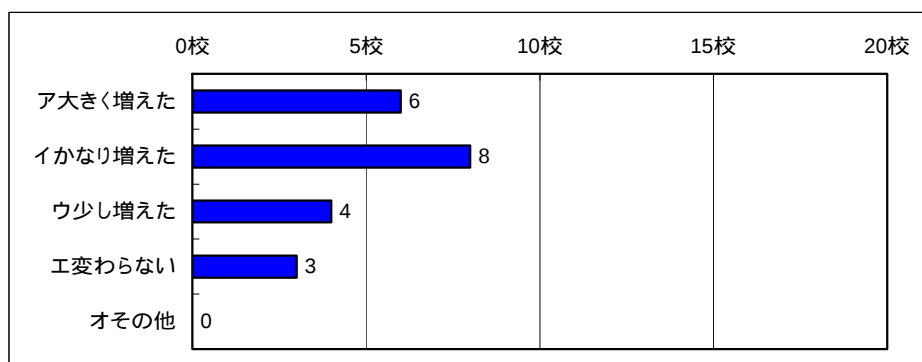


兵庫県教育委員会作成

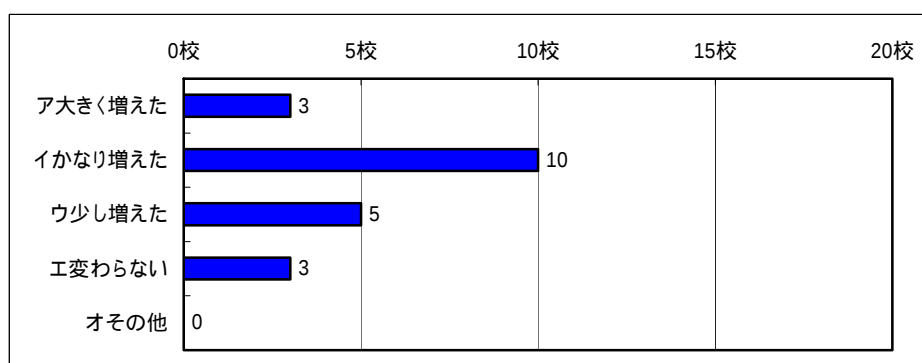
新しいタイプの学校等に係る調査結果

- 実施時期 平成17年8月
- 実施対象校 21校
 総合学科：神戸甲北、香寺、淡路、和田山、伊丹北、有馬、加古川南、
 須磨友が丘、武庫荘総合、豊岡総合
 全日制普通科単位制：尼崎稲園、北須磨、三田祥雲館、姫路東、県芦屋
 生涯学習社会に対応した単位制高校：西宮香風、飾磨工
 特色ある専門学科：舞子、尼崎小田、明石西、国際
- 実施方法 アンケート形式（選択肢より選択及び各項目について校長の意見を記述）
- 回収率 100%
- 調査結果
- 1 生徒の意識について

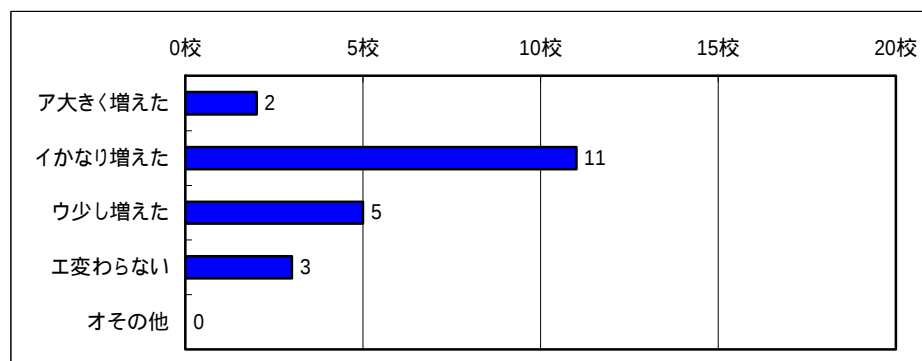
目的を持って入学してきた生徒が増えたか。



授業、学校行事及び課外活動に積極的に取り組む生徒が増えたか。

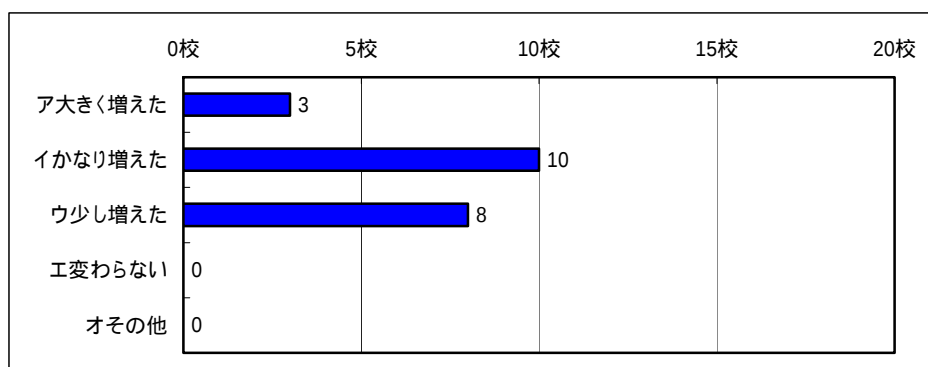


学校生活に満足している生徒が増えたか。

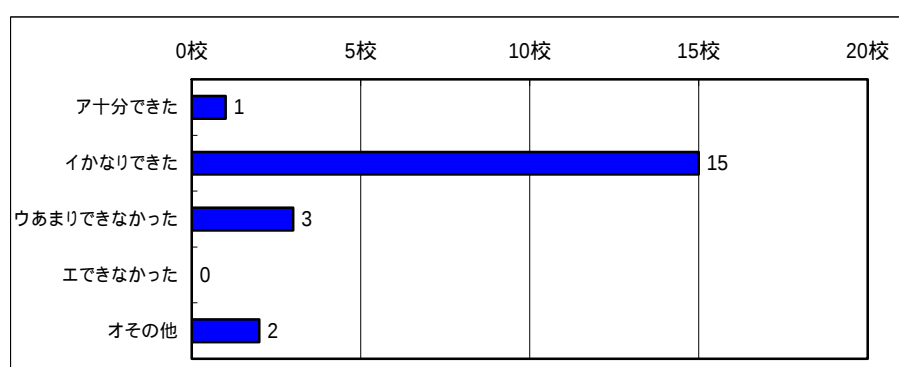


2 教職員について

教職員の意識は変わったか。

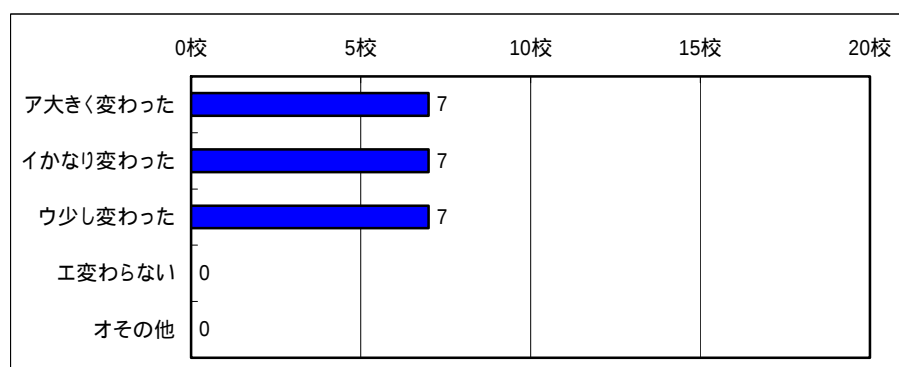


教職員の協力体制はできたか。

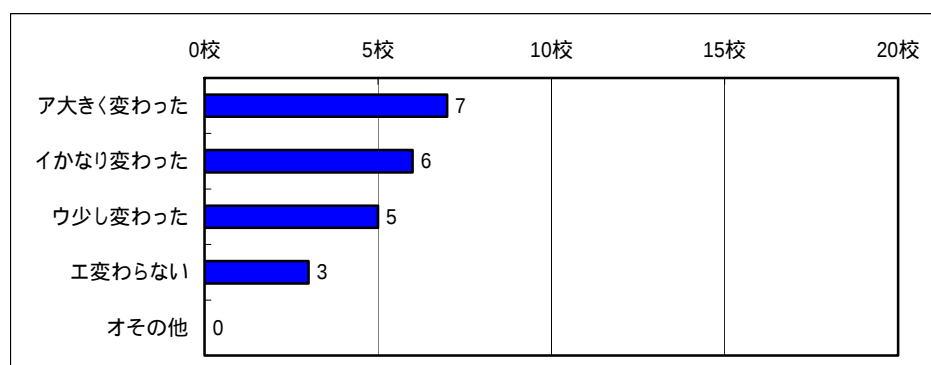


3 保護者や地域の評価について

保護者からの学校の評価は変わったか。

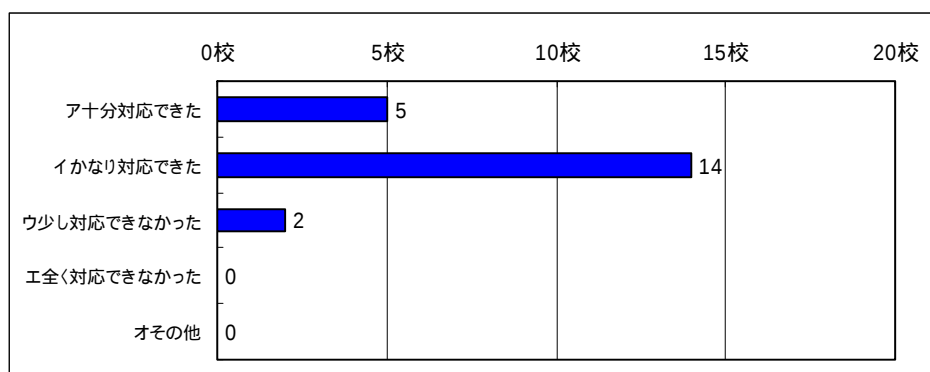


地域からの学校の評価は変わったか。

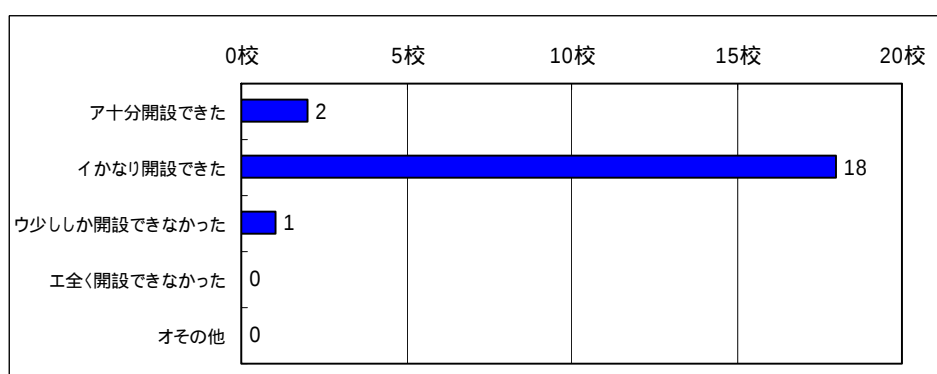


4 教育課程について

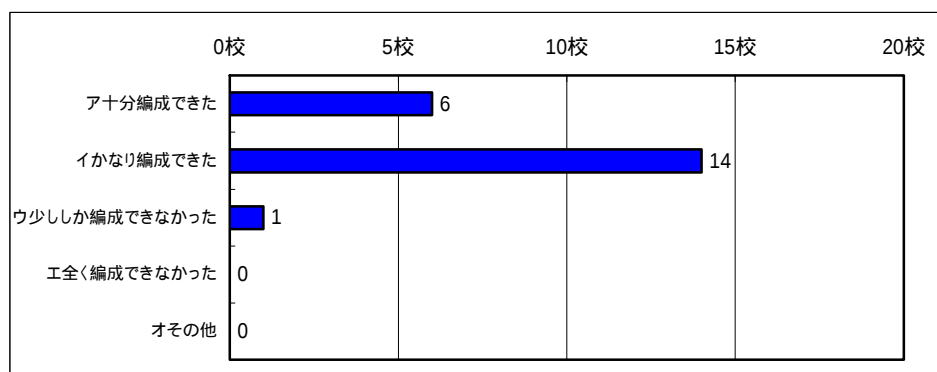
生徒の学習ニーズに対応できたか。



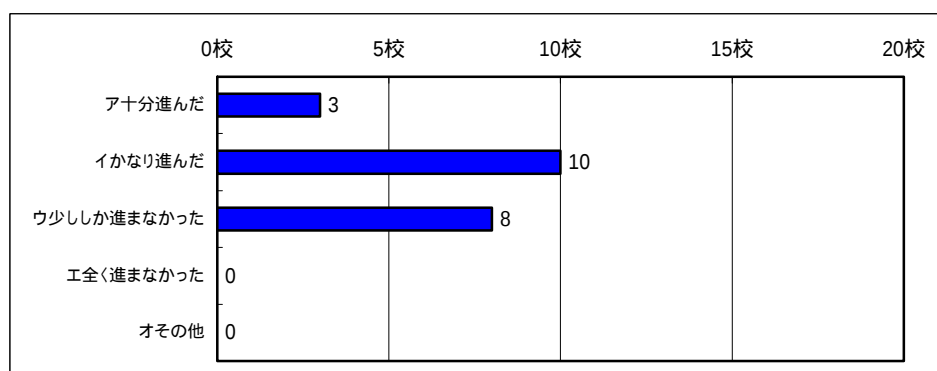
生徒の希望通りの講座を開設できたか。



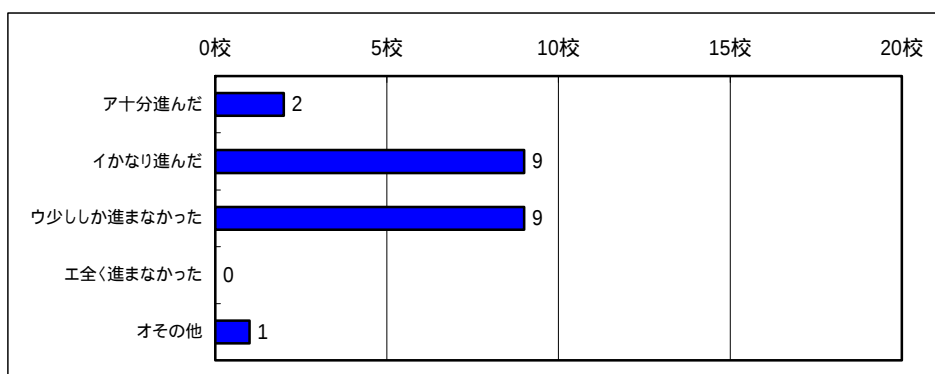
学校設定科目の設置等、特色ある教育課程を編成することができたか。



大学や社会教育施設、企業との連携を取り入れる工夫は進んだか。

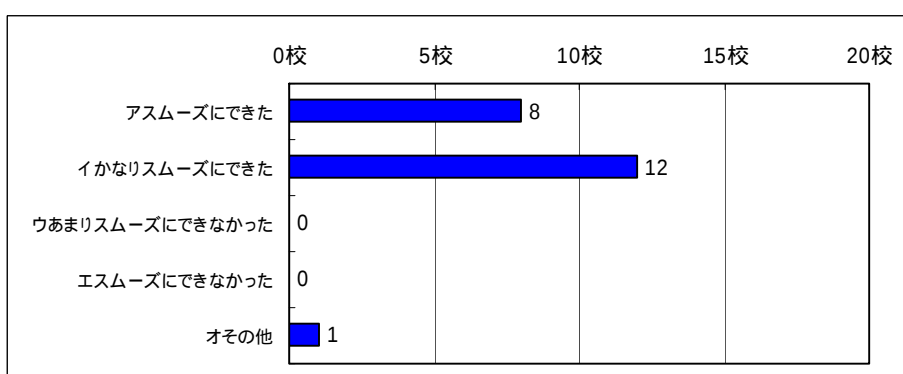


指導方法や評価方法の研究は進んだか。

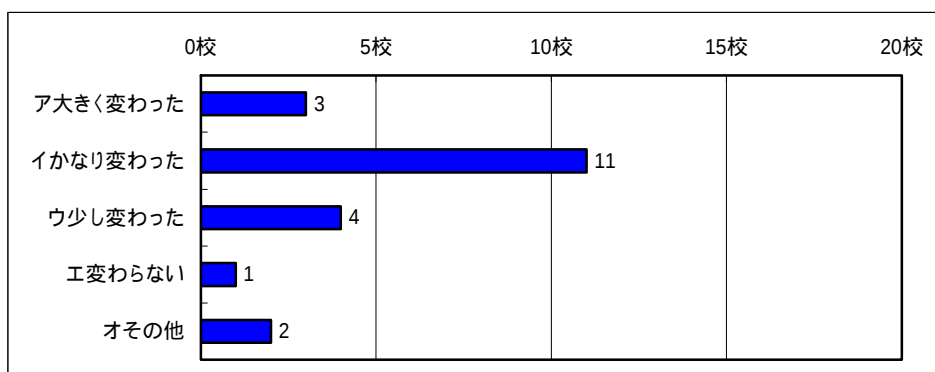


5 進路状況について

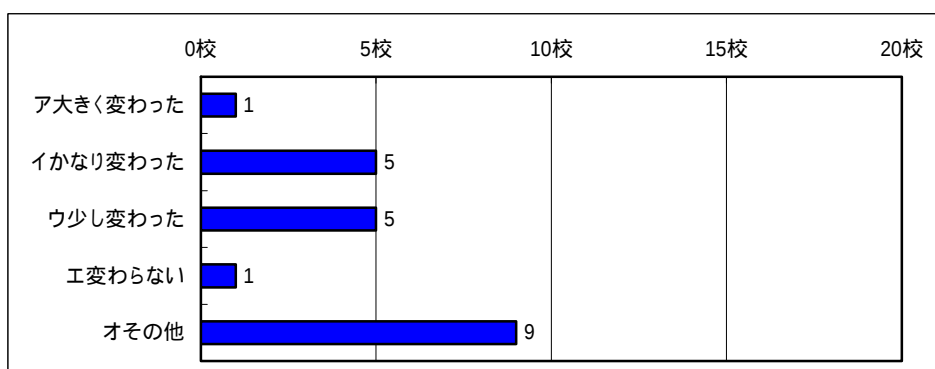
生徒へのガイダンスはスムーズにできたか。



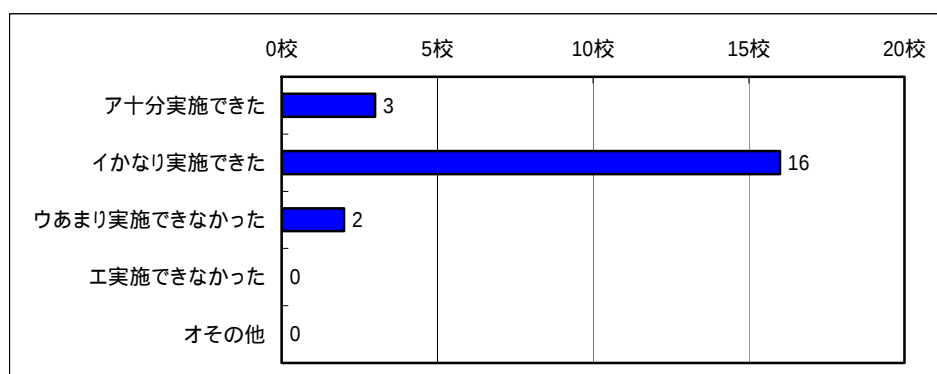
生徒の進路意識や進路選択の内容は変化したか。



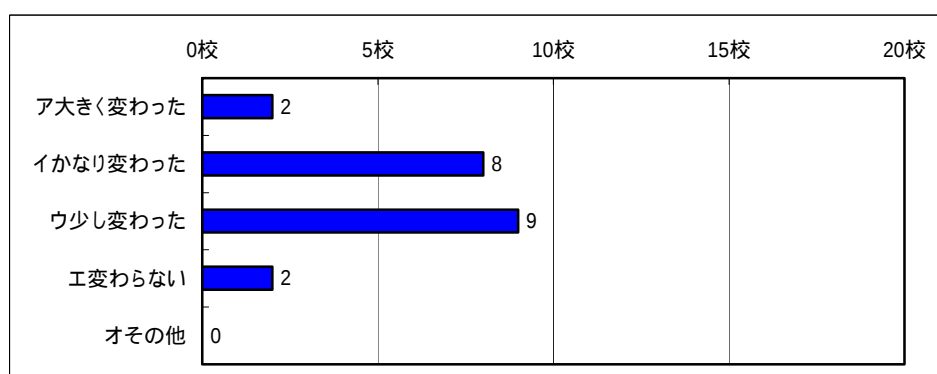
生徒の進路結果は変化したか。



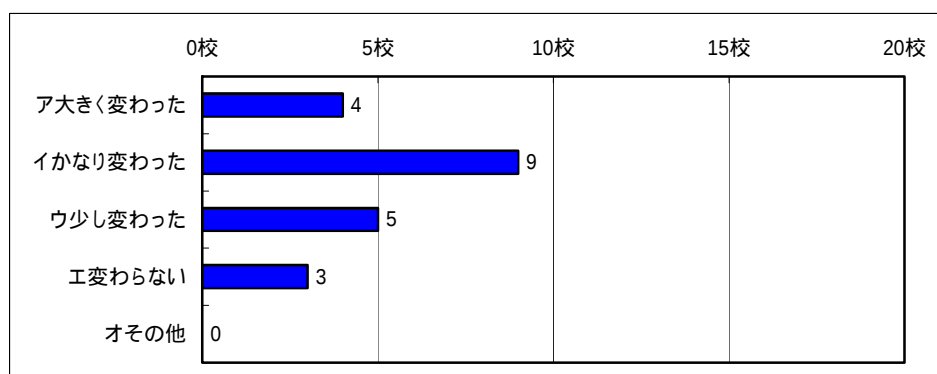
6 学校行事、課外活動について
特色ある行事や教育活動を実施できたか。



学校行事やコンテスト、検定等への生徒の取組について変化があったか。



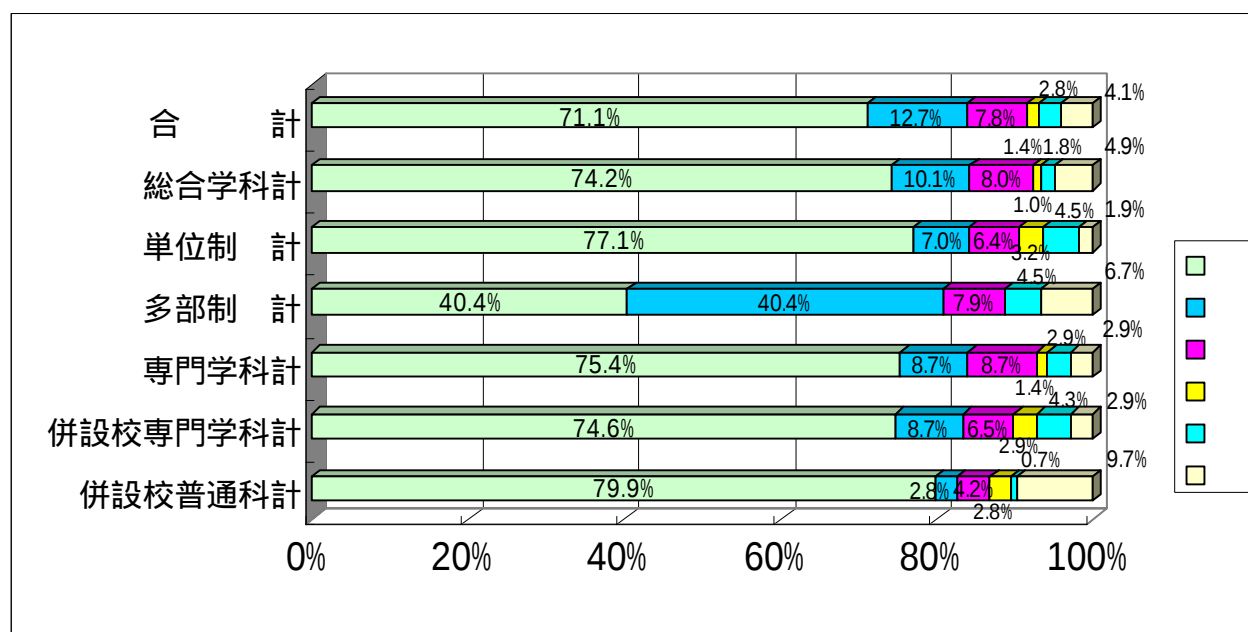
部活動等の課外活動への取組について変化があったか。



新しいタイプの学校や特色ある学科に関する調査集計結果

- 実施時期 平成18年6月
- 実施対象校 20校
 総合学科：神戸甲北、香寺、淡路、和田山、伊丹北、有馬、加古川南、
 須磨友が丘、武庫荘総合、豊岡総合
 全日制普通科単位制：尼崎稲園、北須磨、三田祥雲館、姫路東
 生涯学習社会に対応した単位制高校：西宮香風、飾磨工
 特色ある専門学科：舞子、尼崎小田、明石西、国際
 下線校は、普通科を併設する学校
- 調査対象 対象となる学科に在籍する3年次生及び対象校の内普通科を併設する学校に在学する普通科第3学年生（各1クラスを抽出）
- 実施方法 アンケート形式（選択肢より選択及び各項目について生徒の意見を記述）
- 回収率 95.7%（男415名、女504名、合計919名）
- 調査結果
 - 1 志望校はどのようにして決めましたか。

自分自身で決めた 中学校の先生のすすめ 家族・親戚のすすめ
 塾の先生のすすめ 知人・先輩・友人のすすめ その他

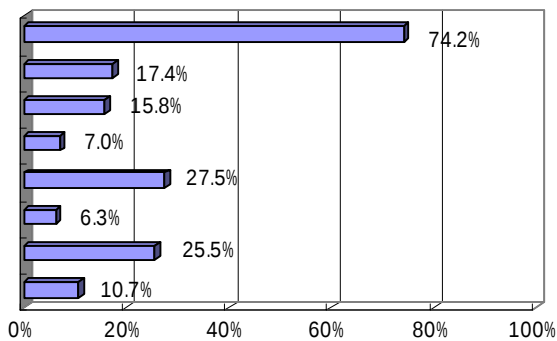


併設校専門学科計とは、尼崎稲園単位制、舞子環境防災科、尼崎小田SR科、明石西国際人間科分の合計である。

併設校普通科計とは、尼崎稲園、舞子、尼崎小田、明石西の各普通科分の合計である。

2 志望校の決め手となった理由は何ですか。（2つまで選択可）

全体集計



特色あるシステムや学習内容（単位制のシステム、学科等）

学校行事・特別活動（生徒会、修学旅行、体験活動等）

大学等への進学や就職の状況

部活動

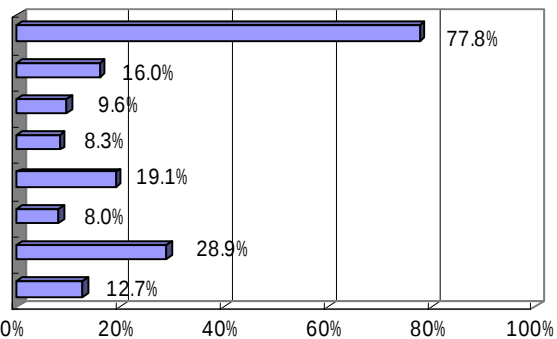
校風・学校の雰囲気

兄弟・親戚が通学している（通学していた）

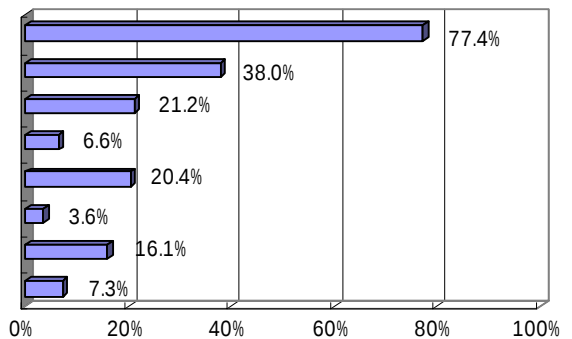
通学時間

その他

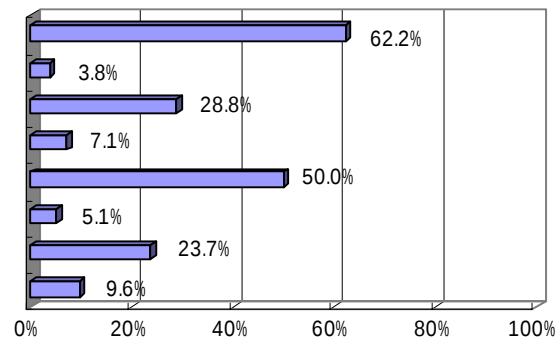
総合学科計



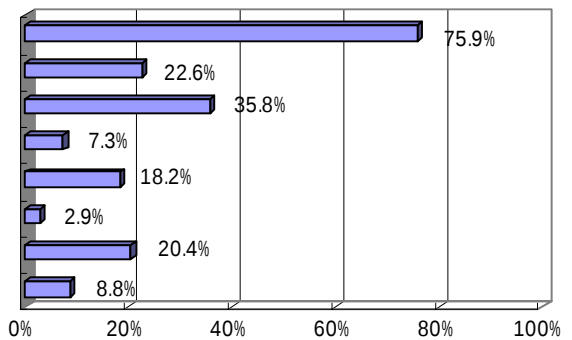
専門学科計



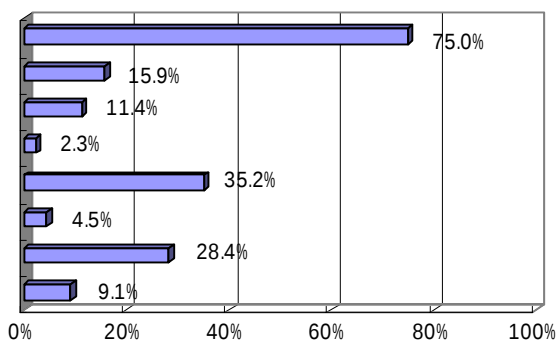
単位制計



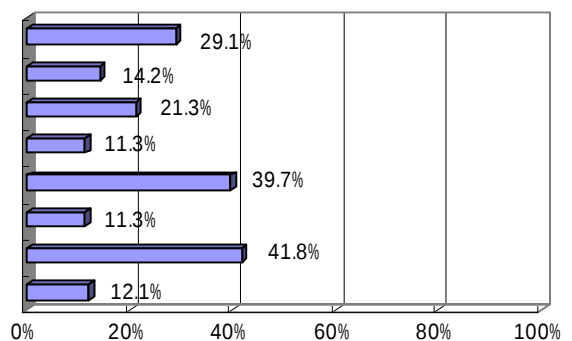
併設校専門学科計



多部制計



併設校普通科計

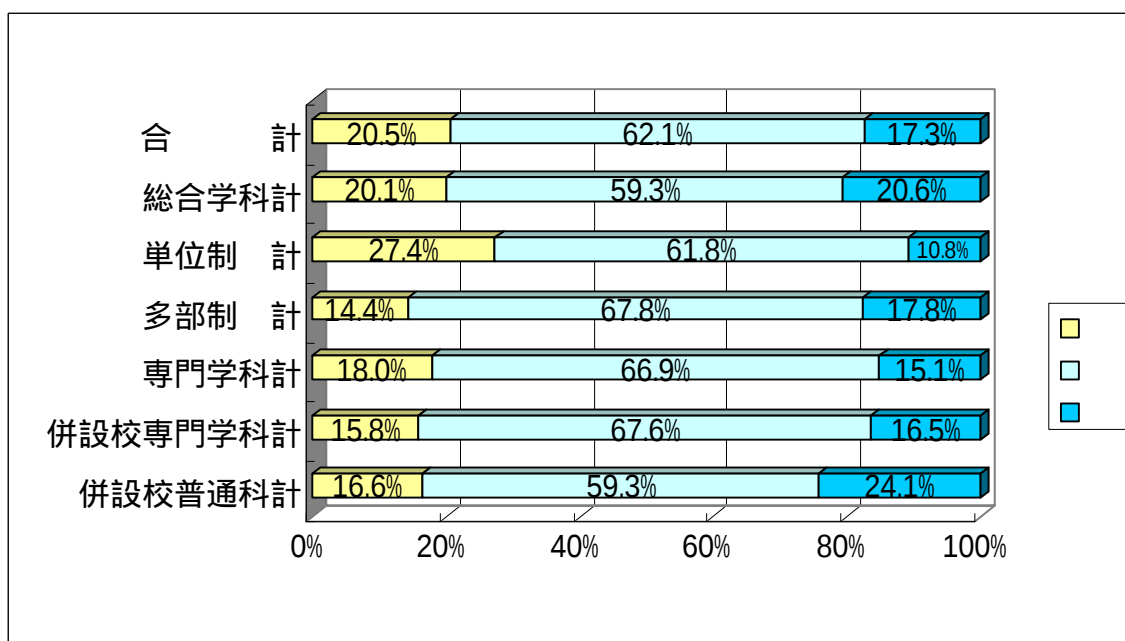


3 現在、高校生活を充実して過ごしていますか。

大変充実している

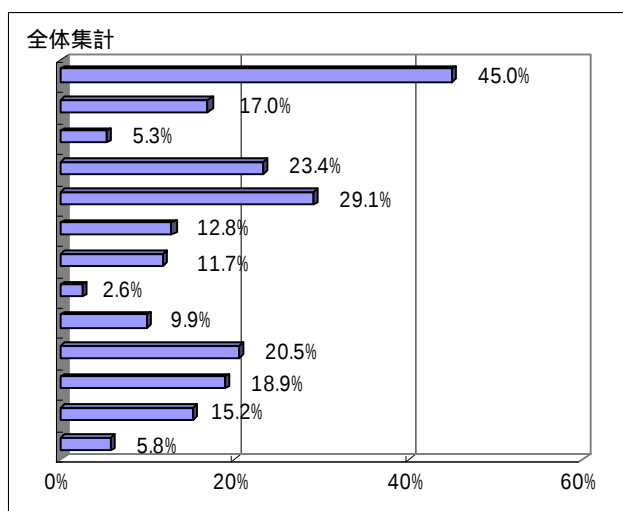
充実している

あまり充実していない

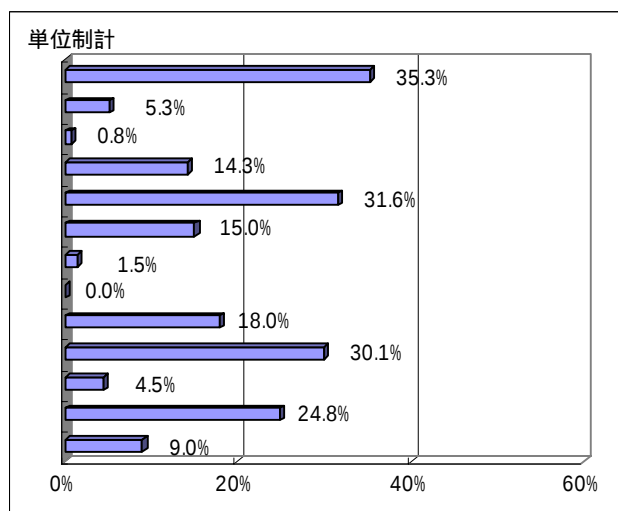
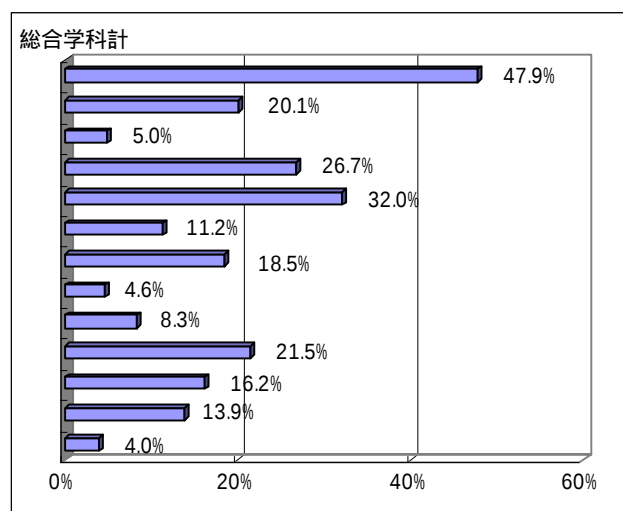


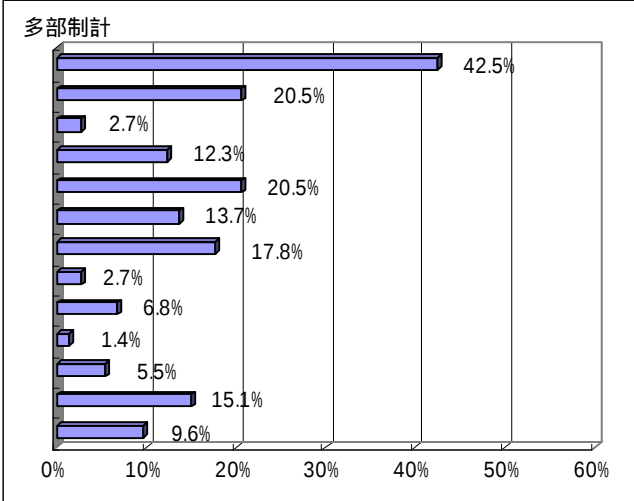
【3で大変充実している、充実していると答えた人対象】

4 高校生活が充実している理由として、あてはまるものは何ですか。（複数回答可）

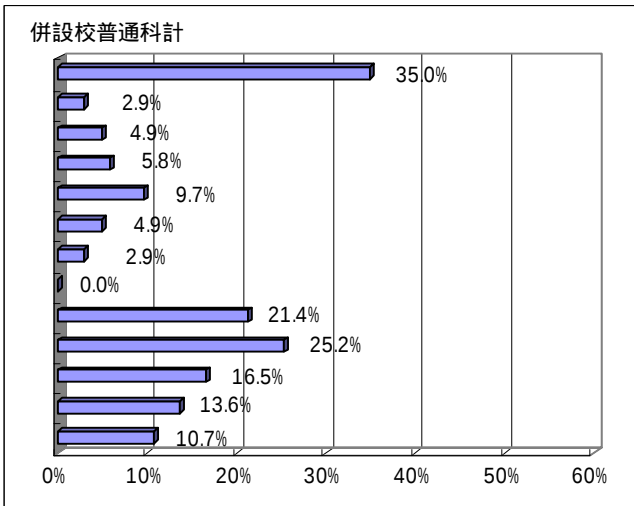
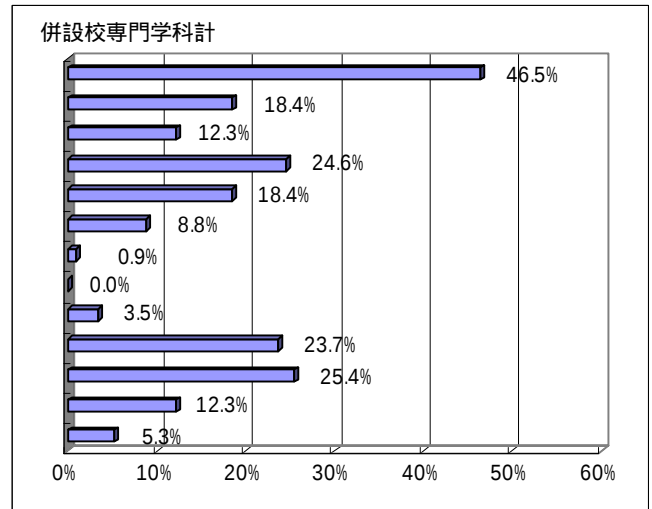
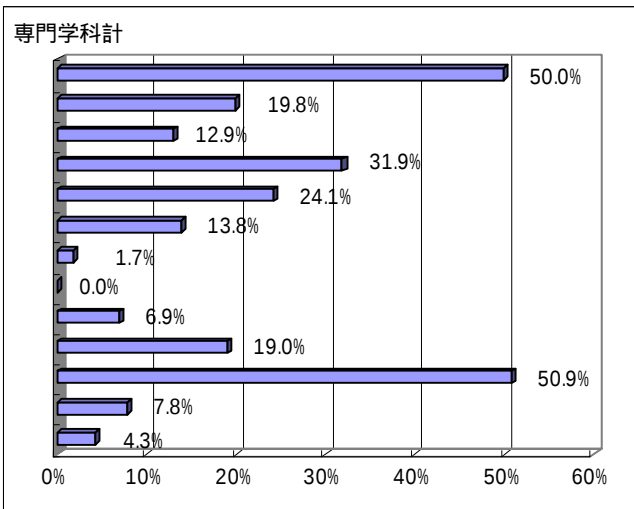


興味・関心をもてる授業・選択科目が多い
 実習や実験など体験的な学びが多く用意されている
 大学や博物館での学習など、学校を離れた学びが多く用意されている
 専門的な内容の授業が多く用意されている
 様々な教科・科目が設置されており、選択の幅が広い
 少人数授業が多く用意されるなど、学習指導がきめ細かい
 資格取得につながる授業が多く用意されている
 インターンシップなどの就業体験の機会が多い
 学校行事や生徒会活動が盛んである
 部活動が盛んである
 研修旅行や修学旅行に特色がある
 進路に対するガイダンスや相談体制が充実している
 その他



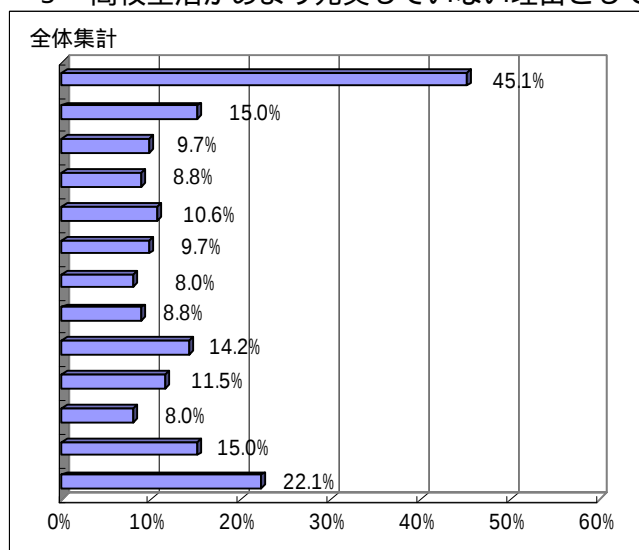


興味・関心をもてる授業・選択科目が多い
 実習や実験など体験的な学びが多く用意されている
 大学や博物館での学習など、学校を離れた学びが多く用意されている
 専門的な内容の授業が多く用意されている
 様々な教科・科目が設置されており、選択の幅が広い
 少人数授業が多く用意されるなど、学習指導がきめ細かい
 資格取得につながる授業が多く用意されている
 インターンシップなどの就業体験の機会が多い
 学校行事や生徒会活動が盛んである
 部活動が盛んである
 研修旅行や修学旅行に特色がある
 進路に対するガイダンスや相談体制が充実している
 その他

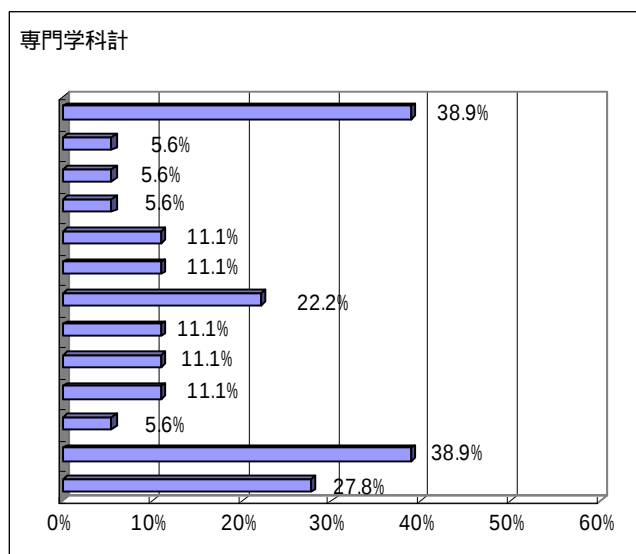
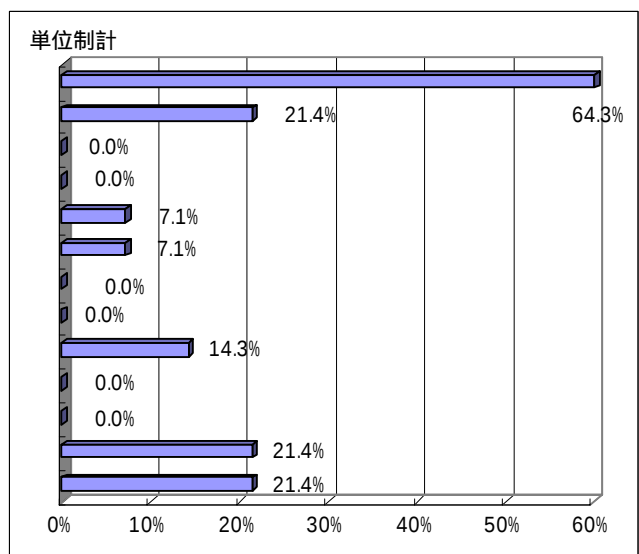
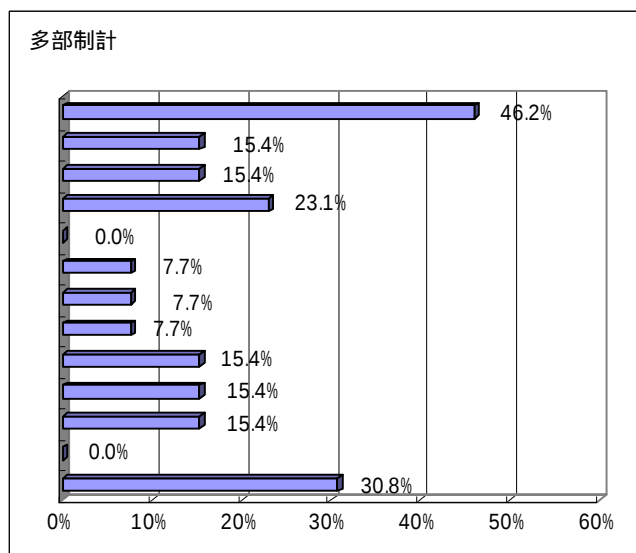
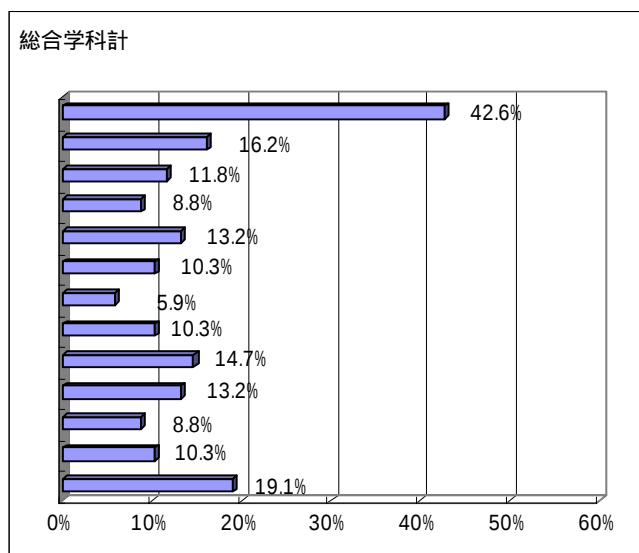


【3であまり充実していないと答えた人対象】

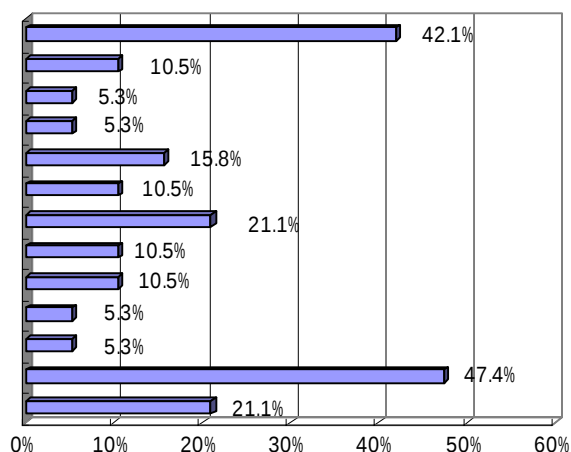
5 高校生活があまり充実していない理由として、あてはまるものは何ですか。（複数回答可）



興味・関心もてる授業・選択科目が少ない
 実習や実験など体験的な学びが少ない
 大学や博物館での学習など、学校を離れた学びが少ない
 専門的な内容の授業が少ない
 様々な教科・科目があまり設置されておらず、選択の幅が狭い
 少人数授業が少ない
 資格取得につながる授業が少ない
 インターンシップなどの就業体験の機会が少ない
 学校行事や生徒会活動があまり盛んでない
 部活動があまり盛んでない
 研修旅行や修学旅行に特色がない
 進路に対するガイダンスや相談体制が充実しているとは言えない
 その他



併設校専門学科計



興味・関心をもてる授業・選択科目が少ない

実習や実験など体験的な学びが少ない

大学や博物館での学習など、学校を離れた学びが少ない

専門的な内容の授業が少ない

様々な教科・科目があまり設置されておらず、選択の幅が狭い

少人数授業が少ない

資格取得につながる授業が少ない

インターンシップなどの就業体験の機会が少ない

学校行事や生徒会活動があまり盛んでない

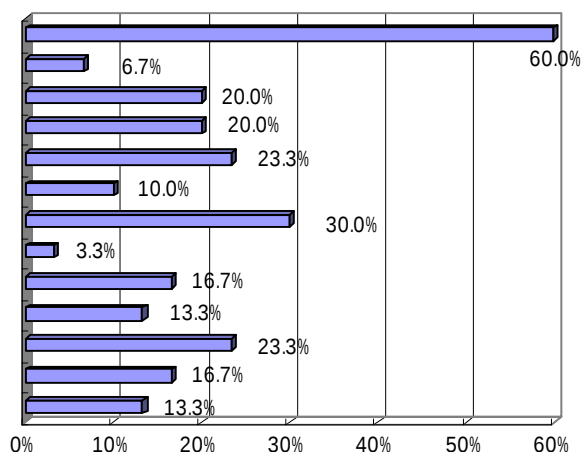
部活動があまり盛んでない

研修旅行や修学旅行に特色がない

進路に対するガイダンスや相談体制が充実しているとは言えない

その他

併設校普通科計



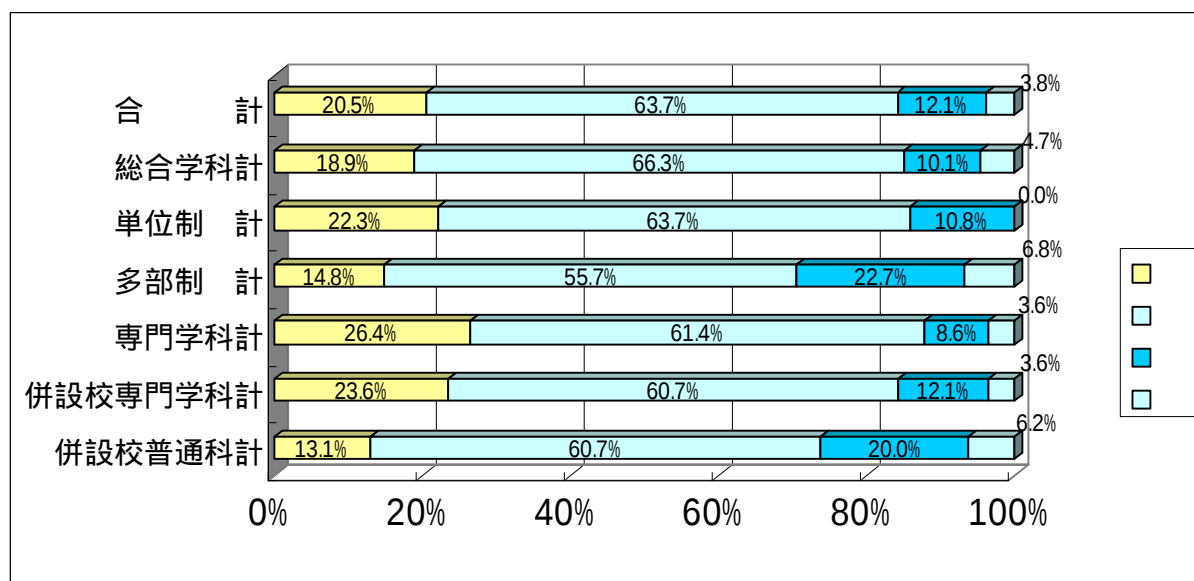
6 進路希望の実現のために、高校での学習は役に立っていると思いますか。

とても役に立っている

ある程度役に立っている

あまり役に立っていない

全く役に立っていない



コース設置校に係る調査集計

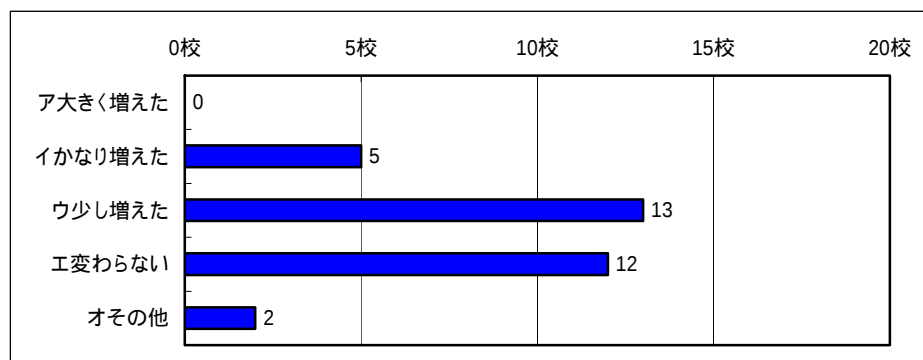
- 実施時期 平成18年9月
- 実施対象校 32校
 - 国際文化系コース設置校（県立）
 - 鈴蘭台西、尼崎小田、鳴尾、宝塚西、川西北陵、篠山鳳鳴、明石城西、播磨南、三木、姫路飾西、相生、太子、村岡
 - 自然科学系コース設置校（県立）
 - 神戸、西宮北、宝塚北、伊丹西、柏原、篠山鳳鳴、明石北、明石清水、加古川東、三木北、小野、社、姫路飾西、福崎、相生、龍野、赤穂、豊岡、八鹿、生野、津名、三原

下線校は、普通科を併設する学校

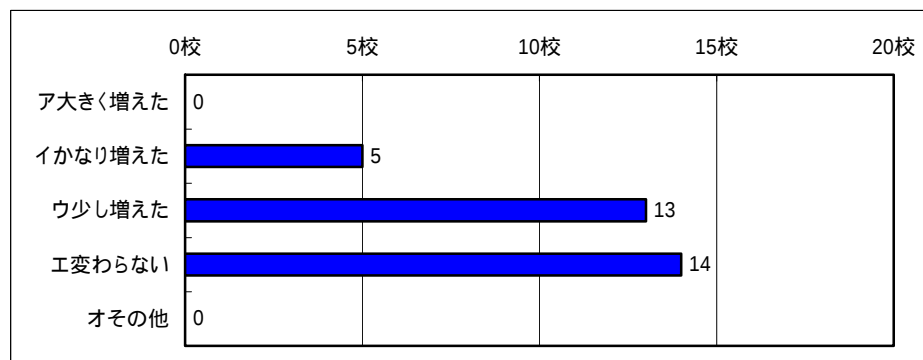
- 実施方法 アンケート形式（選択肢より選択及び各項目について校長の意見を記述）
- 回収率 100%
- 調査結果

1 生徒の意識について

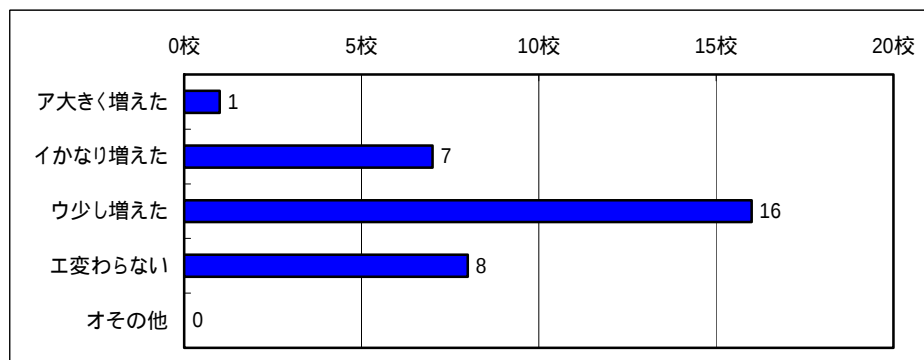
目的を持って入学してきた生徒が増えたか。



授業、学校行事及び課外活動に積極的に取り組む生徒が増えたか。

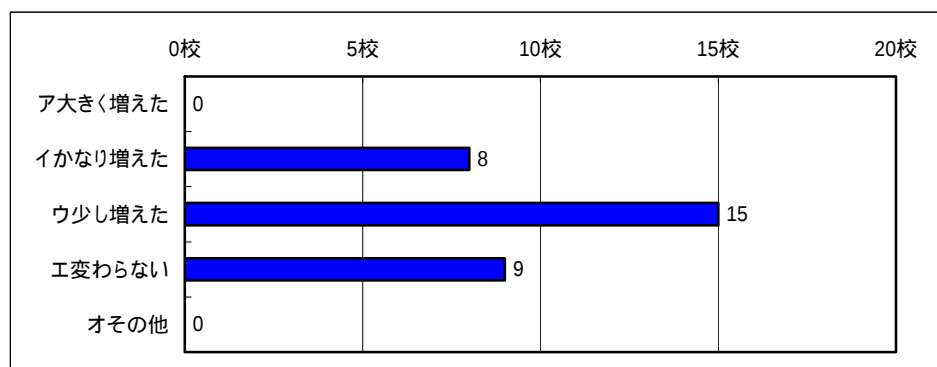


学校生活に満足している生徒が増えたか。

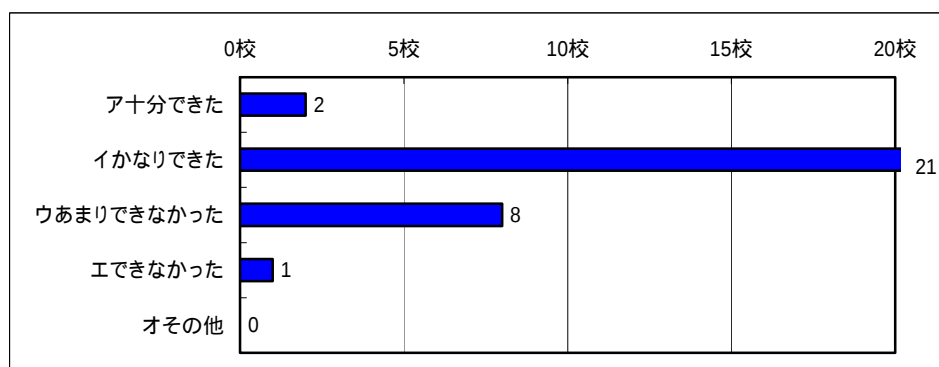


2 教職員について

教職員の意識は変わったか。

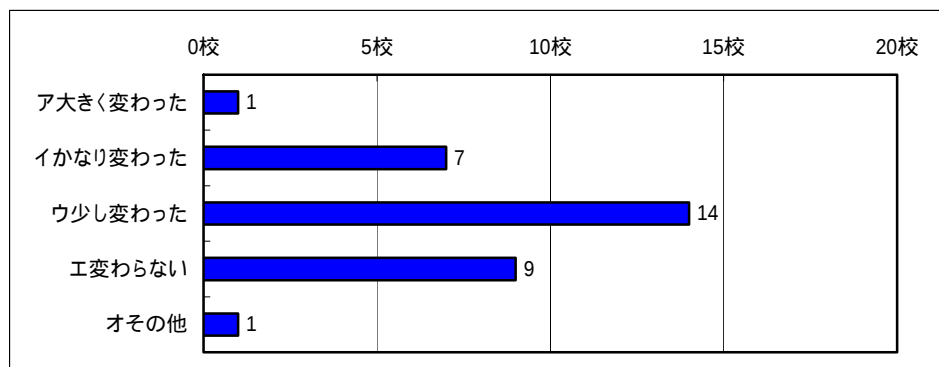


教職員の協力体制はできたか。

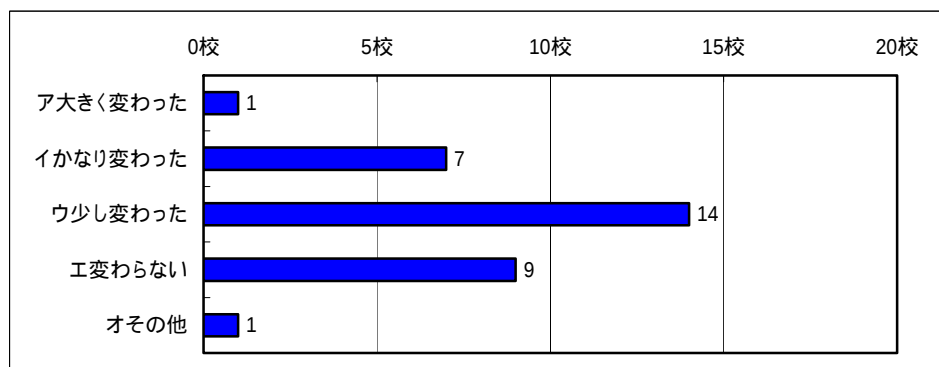


3 保護者や地域の評価について

保護者からの学校の評価は変わったか。

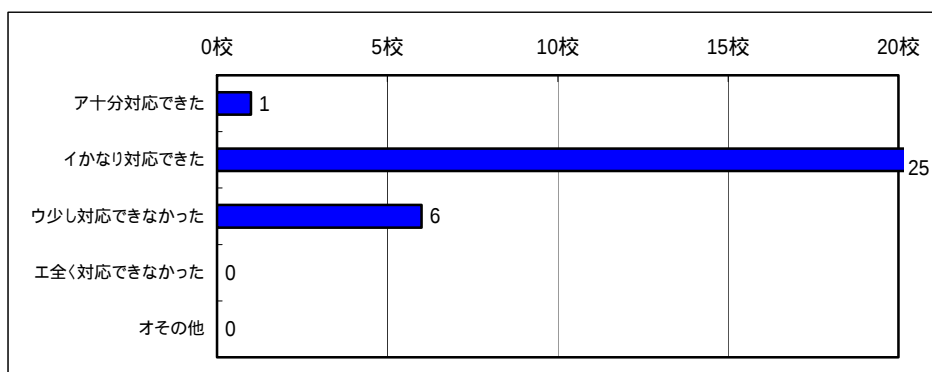


地域からの学校の評価は変わったか。

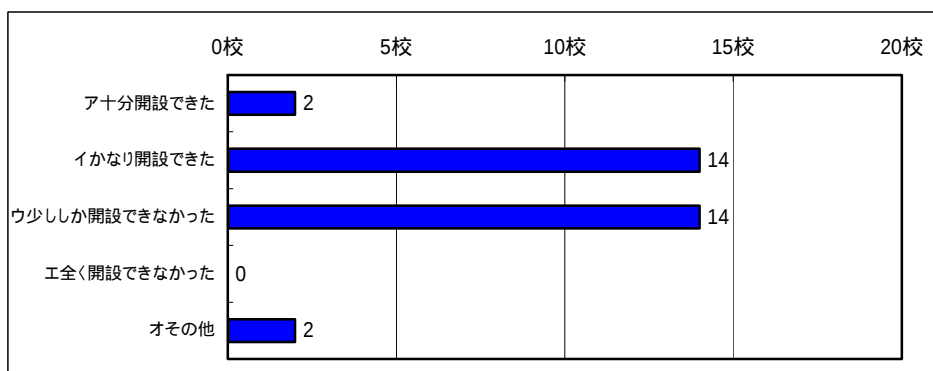


4 教育課程について

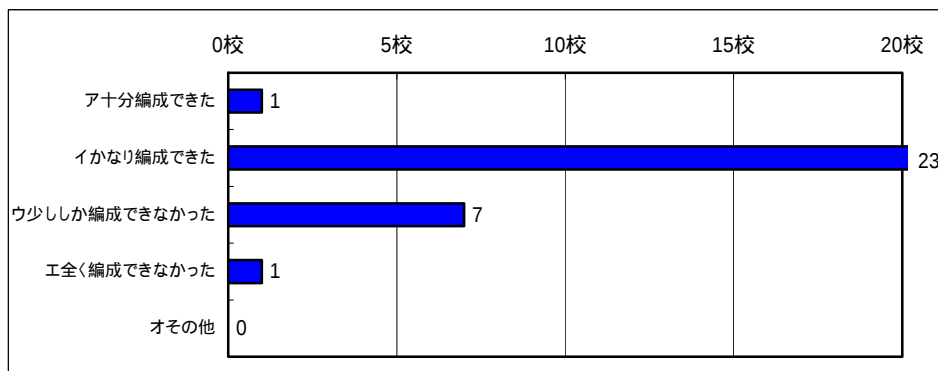
生徒の学習ニーズに対応できたか。



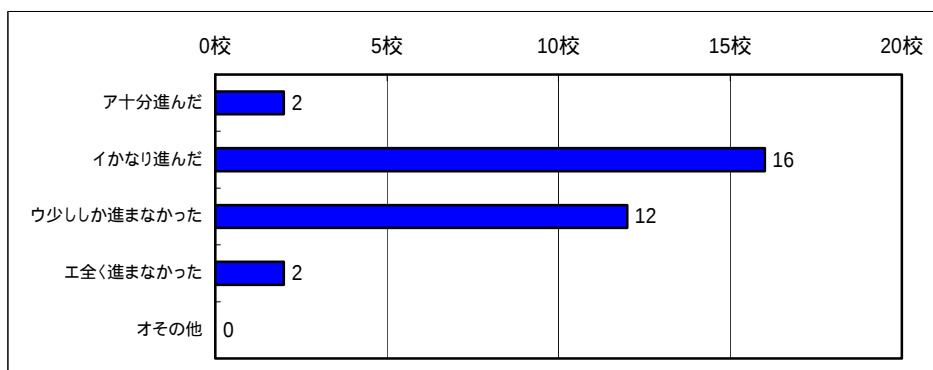
生徒の希望通りの講座を開設できたか。



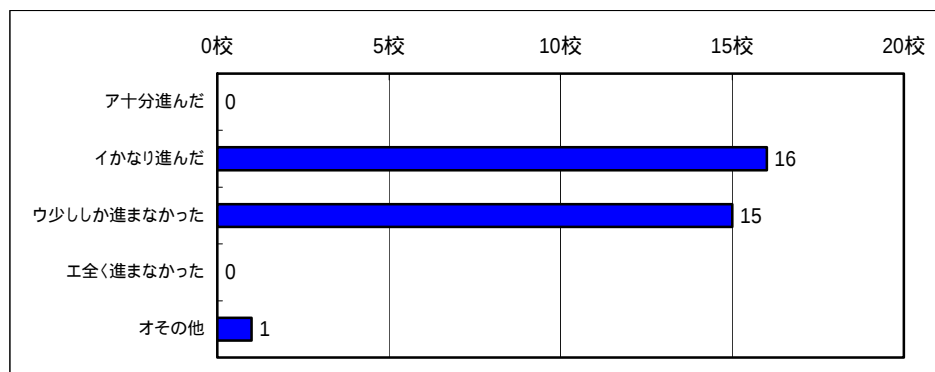
学校設定科目の設置等、特色ある教育課程を編成することができたか。



大学や社会教育施設、企業との連携を取り入れる工夫は進んだか。

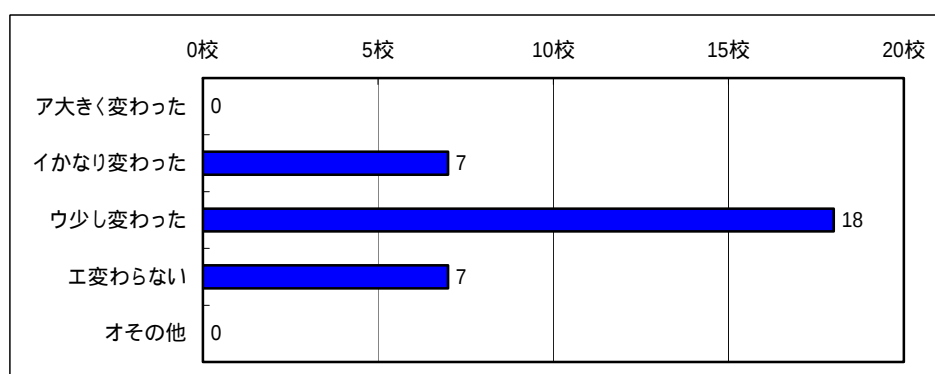


指導方法や評価方法の研究は進んだか。

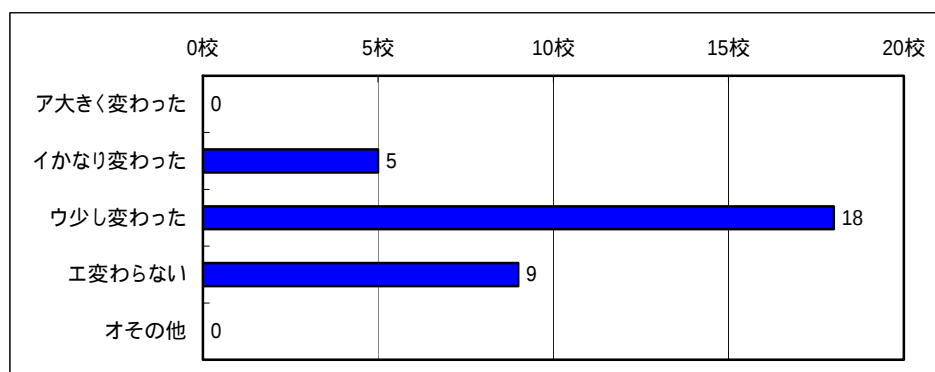


5 進路状況について

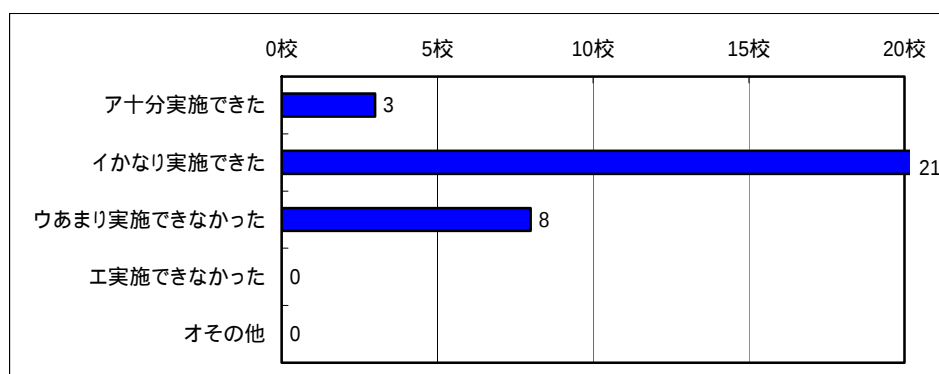
生徒の進路意識や進路選択の内容は変化したか。



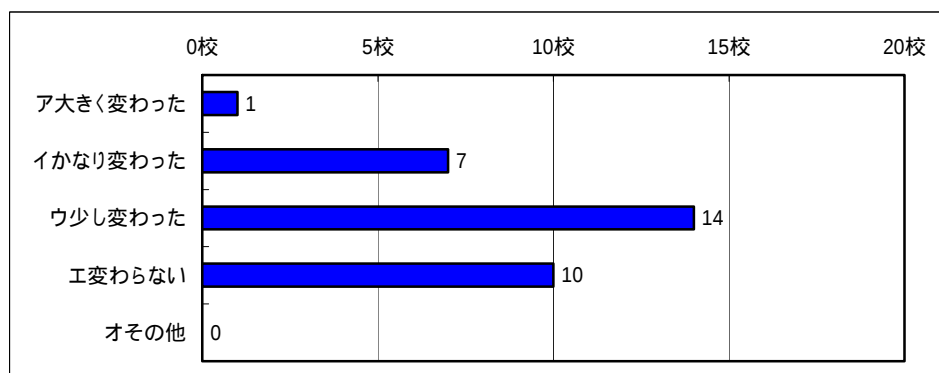
生徒の進路結果は変化したか。



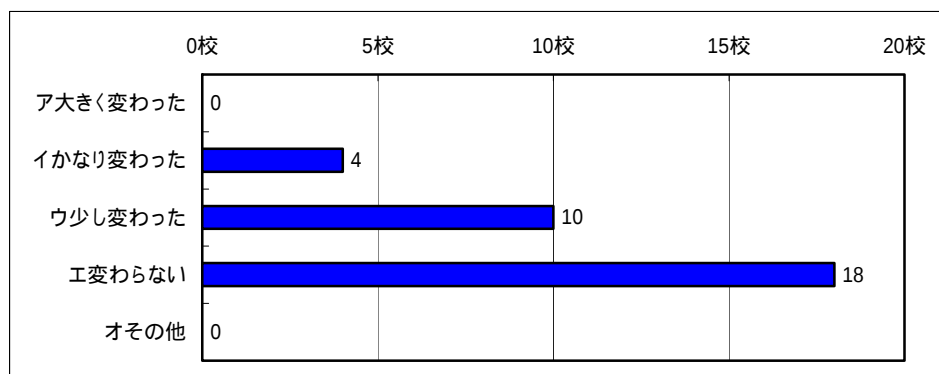
6 学校行事、課外活動について
特色ある行事や教育活動を実施できたか。



学校行事やコンテスト、検定等への生徒の取組について変化があったか。



部活動等の課外活動への取組について変化があったか。



平成 18 年度兵庫県公立高等学校入学者選抜における複数志願選抜及び特色選抜の検証結果について(神戸第三、姫路・福崎、加印学区)

検証のまとめ

平成 18 年度の検証にあたっては、平成 15 年度から 17 年度までと同様、志願状況・合格状況等のデータの分析を行うとともに、5 月に神戸第三、姫路・福崎、加印学区の新入生、保護者、中学校及び高等学校へのアンケートを実施した。その結果は、下記のように、制度は定着しつつあり、新しい選抜制度の目的に沿ったものとなった。

- 1 学びたいことが学べる学校への志願が一層進んでいる。
 - (1) いずれの学区においても学びたい学校を志願し、入学者の 90%以上が第 1 志望で合格している。
 - (2) いずれの学区においても、新入生及び保護者の約 90%が高校生活について「充実している」と答えており、満足度が高い。
 - (3) 複数校に志願した受検生の合格率が高く、昨年度までと同様にセーフティネットの効果が現れている。
- 2 目的意識を持った幅広い学校選択が進み、学校の活性化につながっている。
 - (1) 複数志願選抜における第 1 志望校の決め手については、いずれの学区においても、「校風・学校の雰囲気」が最も多い。また、学校ごとに見ると決め手の理由に特徴があるなど、幅広い学校選択が進んでいる。
 - (2) 特色選抜における志望校の決め手については、いずれの学区においても、「特色ある学習内容」が最も多く、受検生は各校の特色を理解した上で志望している。その結果、学校生活に積極的に取り組む入学生が増え、学校の活性化につながっている。
- 3 新しい選抜制度の周知・理解が進み、制度が定着している。
 - (1) 神戸第三学区、姫路・福崎学区で制度を「理解していた」と答えた新入生・保護者の割合が増え、制度の定着が進んでいる。
 - (2) 加印学区では、他の 2 つの学区の制度導入初年度と比べて制度の理解度は高く、新しい選抜制度を円滑に導入することができた。

志願者数、志願・合格状況等のデータ

定員、志願者数、受験者数、合格者数、受験倍率について

(1) 複数志願選抜について

a 神戸第三学区

複数志願選 抜対象高校 名	総募集 定員	複数志願 選抜募集 定員	志 願 者 数 (第1志望)	複数志願選抜 対象校以外へ の志願変更等	受 検 者 数 (第1志望)	(第2志望) 各高校を第2志 望とした者の数	合格 者数	倍率	倍率	倍率	倍率	倍率
長 田	320	320	343	1	342	(2)	320	1.07	1.23	1.06	1.12	1.04
須 磨 東	320	320	362	8	354	(231)	320	1.11	1.03	1.11	1.03	1.10
舞 子	240	240	256	11	245	(206)	240	1.02	1.05	1.01	0.84	1.02
星 陵	320	304	390	5	385	(131)	304	1.27	1.42	1.26	1.35	1.07
伊川谷北	320	288	367	10	357	(159)	288	1.24	1.14	1.45	1.44	1.09
伊 川 谷	280	252	276	4	272	(298)	252	1.08	1.06	1.19	0.96	1.13
神戸高塚	280	240	269	9	260	(217)	240	1.08	0.94	1.23	1.01	1.26
市 須 磨	240	204	264	9	255	(256)	204	1.25	1.28	1.14	1.27	1.05
市神戸西	200	170	178	1	177	(230)	170	1.04	1.25	1.03	1.15	1.04
計	2520	2338	2705	58	2647	—	2338	1.13	1.15	1.17	1.13	1.10
計	2560	2408	2812	35	2777	—	2408	—	—	—	—	—
計	2800	2634	3130	53	3077	—	2634	—	—	—	—	—
計	2920	2814	3320	131	3189	—	2814	—	—	—	—	—
全県的全日制普通科高等学校の倍率（単位制を除く）								1.06	1.07	1.06	1.05	1.06

「倍率」＝「受験者数」÷「複数志願選抜募集定員」

b 姫路・福崎学区

複数志願 選抜対象 高校名	総募集 定員	複数志願選 抜募集定員	志 願 者 数 (第1志望)	複数志願選抜 対象校以外へ の志願変更等	受 検 者 数 (第1志望)	(第2志望) 各高校を第2志 望とした者の数	合 格 者数	倍率	倍率	倍率
姫路別所	200	170	192	4	188	(144)	170	1.11	1.20	1.15
姫路西	280	280	335	17	318	(0)	280	1.14	1.07	1.03
姫路飾西	160	160	139	4	135	(116)	155	0.84	1.25	1.12
姫路南	240	204	260	3	257	(109)	204	1.26	0.97	1.07
網干	200	171	208	1	207	(187)	171	1.21	1.04	1.19
家島	40	34	34		34	(4)	34	1.00	0.29	0.74
夢前	120	102	97	5	92	(47)	102	0.90	1.03	0.97
神崎	80	68	91	4	87	(63)	68	1.28	1.22	1.05
福崎	200	200	187		187	(110)	200	0.94	0.95	1.09
市姫路	240	240	323	26	297	(109)	240	1.24	1.39	1.16
市琴丘	280	280	247	2	245	(174)	267	0.88	1.21	1.04
市飾磨	240	240	273	10	263	(293)	240	1.10	1.29	1.15
計	2280	2149	2386	76	2310	—	2131	1.07	1.14	1.10
計	2320	2228	2600	108	2492	—	2188	—	—	—
計	2360	2360	2508	49	2557	—	2332	—	—	—

「倍率」＝「受験者数」÷「複数志願選抜募集定員」

c 加印学区

複数志願 選抜対象 高校名	総募集 定員	複数志願選 抜募集定員	志 願 者 数 (第1志望)	複数志願選抜 対象校以外へ の志願変更等	受 検 者 数 (第1志望)	(第2志望) 各高校を第2志 望とした者の数	合格 者数	倍率	倍率
加古川東	280	280	286	0	286	(0)	280	1.02	1.11
加古川西	320	304	352	4	348	(130)	304	1.15	1.13
高砂	280	240	321	26	295	(264)	240	1.23	1.05
高砂南	280	240	261	17	244	(226)	240	1.02	1.02
松陽	120	102	124	7	117	(214)	102	1.15	1.09
東播磨	280	252	269	3	266	(227)	252	1.06	1.10
播磨南	240	240	249	8	241	(225)	240	1.00	1.05
計	1800	1658	1862	65	1797	—	1658	1.08	1.07
計	1840	1840	1954	30	1984	—	1840	—	—

「倍率」＝「受験者数」÷「複数志願選抜募集定員」

(2) 志願ごとの合格者数

a 神戸第三学区 (9 校計)

志 望	人 数	割合	割合	割合	割合
第 1 志 望	2150	92.0%	92.1%	90.4%	91.6%
第 2 志 望	172	7.4%	7.3%	9.3%	7.7%
そ の 他 校	16	0.7%	0.6%	0.3%	0.7%
計	2338	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

b 姫路・福崎学区 (1 2 校計)

志 望	人 数	割合	割合
第 1 志 望	1951	91.6%	88.3%
第 2 志 望	178	8.4%	11.6%
そ の 他 校	2	0.1%	0.1%
計	2131	100.0%	100.0%

c 加印学区 (7 校計)

志 望	人 数	割合
第 1 志 望	1564	94.3%
第 2 志 望	84	5.1%
そ の 他 校	10	0.6%
計	1658	100.0%

(3) 志願パターン別志願・合格状況

a 神戸第三学区 (9 校計)

志願パターン	志 願 状 況					合 格 状 況					
	人数	割合	割合	割合	割合	合格	不合格	合格率	合格率	合格率	合格率
第 1 志望校のみ	881	33.3%	32.2%	30.7%	35.4%	692	189	78.5%	76.5%	76.1%	77.0%
第 1 志望校、第 2 志望校	1326	50.1%	48.5%	49.0%	49.4%	1254	72	94.6%	93.5%	91.8%	95.4%
第 1・第 2 志望校、その他校	404	15.3%	17.6%	18.7%	14.1%	367	37	90.8%	88.5%	86.2%	92.0%
第 1 志望校、その他校	36	1.4%	1.7%	1.5%	1.1%	25	11	69.4%	66.7%	70.2%	83.8%
計	2647	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	2338	309	88.3%	86.7%	85.6%	88.2%

注：「その他校」：第 1 志望、第 2 志望以外の学校

b 姫路・福崎学区 (1 2 校計)

志願パターン	志 願 状 況			合 格 状 況			
	人 数	割合	割合	合 格	不合格	合格率	合格率
第 1 志望校のみ	953	41.3%	37.0%	806	147	84.6%	75.5%
第 1 志望校、第 2 志望校	1337	57.9%	60.3%	1305	32	97.6%	95.3%
第 1・第 2 志望校、その他校	19	0.8%	2.4%	19	0	100.0%	88.1%
第 1 志望校、その他校	1	0.04%	0.3%	1	0	100.0%	100.0%
計	2310	100.0%	100.0%	2131	179	92.3%	86.7%

c 加印学区 (7 校計)

志願パターン	志 願 状 況		合 格 状 況		
	人 数	割合	合 格	不合格	合格率
第 1 志望校のみ	495	27.5%	419	76	84.6%
第 1 志望校、第 2 志望校	991	55.1%	957	34	96.6%
第 1・第 2 志望校、その他校	295	16.4%	273	22	92.5%
第 1 志望校、その他校	16	0.9%	9	7	56.3%
計	1797	100.0%	1658	139	92.3%

(4) 特色選抜について

a 神戸第三学区

対象高校名	入学者の定員	特色選抜定員	割合	志願者数	受検者数	合格者数	倍率	倍率	倍率	倍率
星 陵	320	16	5%	69	69	16	4.31	4.06	2.94	-
伊川谷北	320	32	10%	120	120	32	3.75	3.41	3.75	3.67
伊 川 谷	280	28	10%	48	48	28	1.71	1.71	1.66	-
神戸高塚	280	40	上限	92	92	40	2.30	2.88	2.00	5.94
市 須 磨	240	36	15%	90	90	36	2.50	3.50	2.25	4.68
市神戸西	200	30	15%	76	76	30	2.53	4.35	2.92	4.21
計	1640	182	—	495	495	182	2.72	3.20	2.55	4.44

b 姫路・福崎学区

対象高校名	入学者の定員	特色選抜定員	割合	志願者数	受検者数	合格者数	倍率	倍率
姫路別所	200	30	15%	54	54	30	1.80	2.80
姫 路 南	240	36	15%	72	72	36	2.00	2.54
網 干	200	30	15%	30	29	29	0.97	1.70
家 島	40	6	15%	18	18	6	3.00	1.88
夢 前	120	18	15%	23	23	18	1.28	2.50
神 崎	80	12	15%	19	19	12	1.58	4.13
計	880	132	—	216	215	131	1.63	2.49

c 加印学区

対象高校名	入学者の定員	特色選抜定員	割合	志願者数	受検者数	合格者数	倍率
加古川西	320	16	5%	146	145	16	9.06
高砂	280	40	15%	114	114	40	2.85
高砂南	280	40	15%	114	113	40	2.83
松陽	120	18	15%	27	27	18	1.50
東播磨	280	28	10%	79	79	28	2.82
計	1280	142	—	480	478	142	3.37

新入生、新入生保護者、中学校及び高等学校対象のアンケート実施結果（抜粋）

【実施概要】

（１）実施時期

平成１８年５月

（２）神戸第三学区

種 類	対 象	形 式	有 効 回 答 数
高校新入生アンケート	対象校９校の普通科（コースを除く）への高校新入生全員（２,５２０名）	選択方式	２,４４５名 （回答率９７.０％）
高校新入生保護者アンケート	対象校９校の普通科（コースを除く）への高校新入生の保護者から抽出（各校４０名×９校＝３６０名）	選択方式及び自由記述方式	３１６名 （回答率８７.８％）
高等学校長アンケート	対象校９校の高等学校長	選択方式及び自由記述方式	９名 （回答率１００.０％）
中学校長アンケート	神戸第三学区内の市立中学校の校長（３９名）	選択方式及び自由記述方式	３９名 （回答率１００.０％）
小計	（２,９２８名）		２,８０９名 （回答率９５.９％）

（３）姫路・福崎学区

種 類	対 象	形 式	有 効 回 答 数
高校新入生アンケート	対象校１２校の普通科（コースを除く）への高校新入生全員（２,２６１名）	選択方式	２,１９０名 （回答率９６.９％）
高校新入生保護者アンケート	対象校１２校の普通科（コースを除く）への高校新入生の保護者から抽出（各校４０人×１２校＝４８０名）	選択方式及び自由記述方式	４１７名 （回答率８６.９％）
高等学校長アンケート	対象校１２校の高等学校長	選択方式及び自由記述方式	１２名 （回答率１００.０％）
中学校長アンケート	姫路・福崎学区内の市町立中学校の校長（５０名）	選択方式及び自由記述方式	５０名 （回答率１００.０％）
小計	（２,８０３名）		２,６６９名 （回答率９５.２％）

（４）加印学区

種 類	対 象	形 式	有 効 回 答 数
高校新入生アンケート	対象校７校の普通科（コースを除く）への高校新入生全員（１,８００名）	選択方式	１,７５７名 （回答率９７.６％）
高校新入生保護者アンケート	対象校７校の普通科（コースを除く）への高校新入生の保護者から抽出（各校４０人×７校＝２８０名）	選択方式及び自由記述方式	２７３名 （回答率９７.５％）
高等学校長アンケート	対象校７校の高等学校長	選択方式及び自由記述方式	１２名 （回答率１００.０％）
中学校長アンケート	加印学区内の市町立中学校の校長（２２名）	選択方式及び自由記述方式	２２名 （回答率１００.０％）
小計	（２,１０９名）		２,０６４名 （回答率９７.９％）

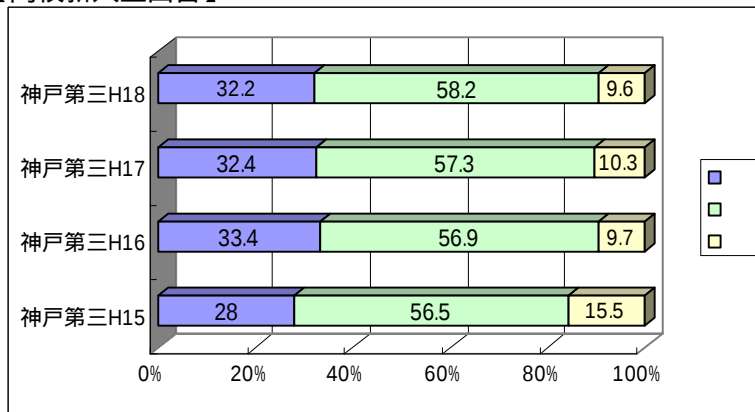
【実施結果】

(1) 高校生活の充実度について

a 神戸第三学区

問 現在、充実した高校生活を送っていますか

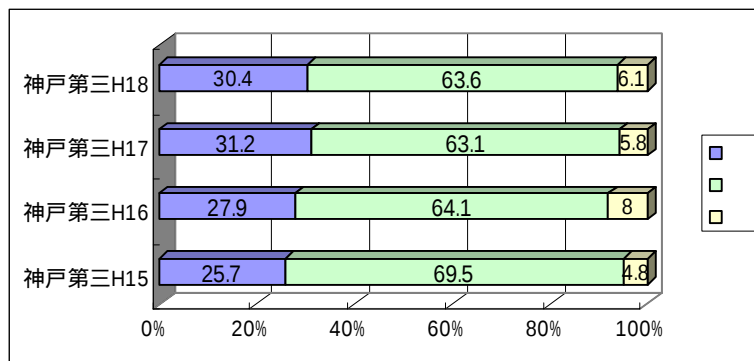
【高校新入生回答】



大変充実している
充実している
あまり充実していない

問 お子さんは、現在充実した高校生活を過ごしておられますか

【高校新入生保護者回答】

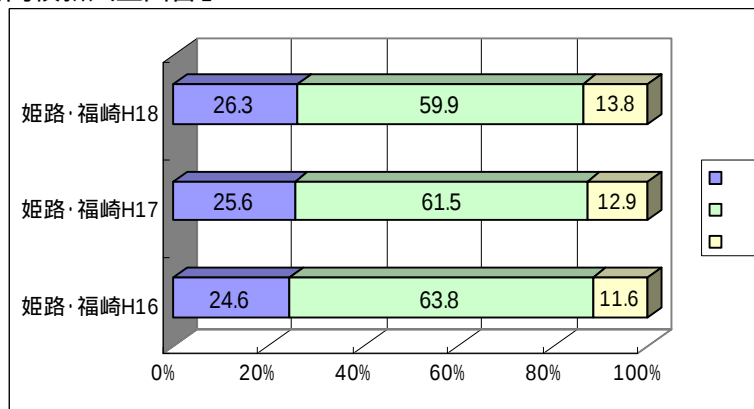


大変充実している
充実している
あまり充実していない

b 姫路・福崎学区

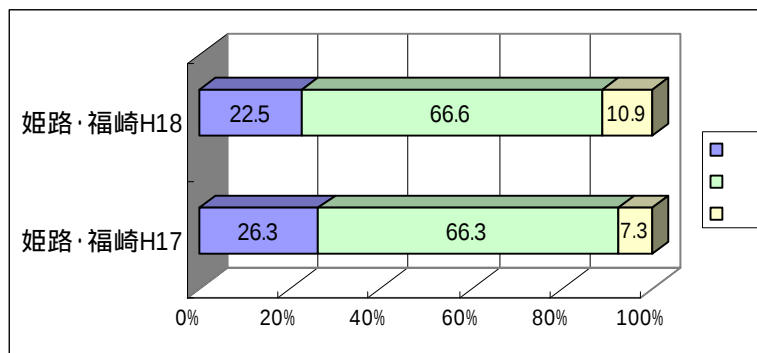
問 現在、充実した高校生活を送っていますか

【高校新入生回答】



大変充実している
充実している
あまり充実していない

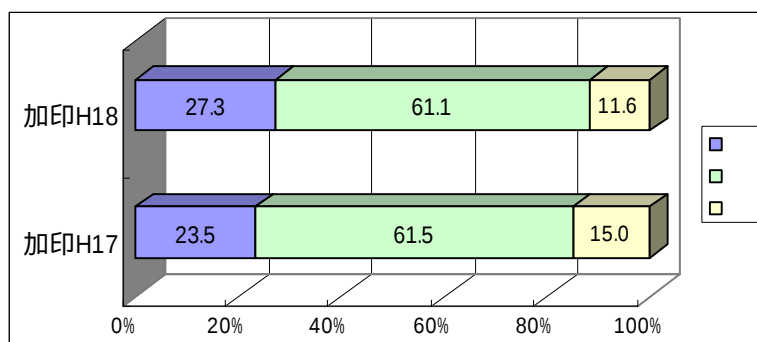
問 お子さんは、現在充実した高校生活を過ごしておられますか
【高校新入生保護者回答】



大変充実している
充実している
あまり充実していない

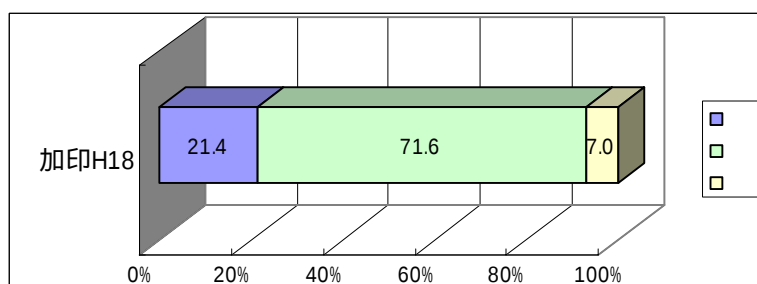
c 加印学区

問 現在、充実した高校生活を送っていますか
【高校新入生回答】



大変充実している
充実している
あまり充実していない

問 お子さんは、現在充実した高校生活を過ごしておられますか
【高校新入生保護者回答】



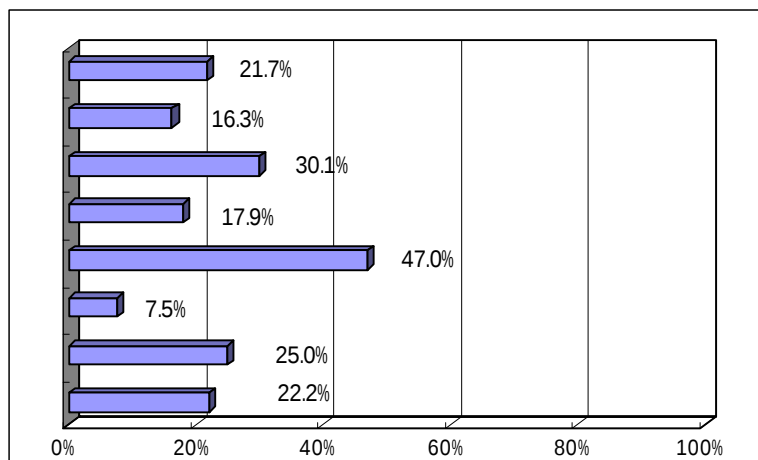
大変充実している
充実している
あまり充実していない

(2) 複数志願選抜の第1志望校の決め手について

a 神戸第三学区

問 第1志望校の決め手となった理由は何ですか

【高校新入生回答】



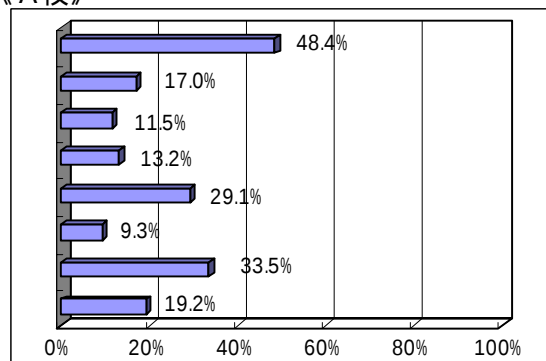
特色ある学習内容
学校行事・特別活動
大学等への進学や就職の状況
部活動
校風・学校の雰囲気
兄弟・親戚が通学している
(していた)
通学時間
その他

[神戸第三学区の学校別での状況]

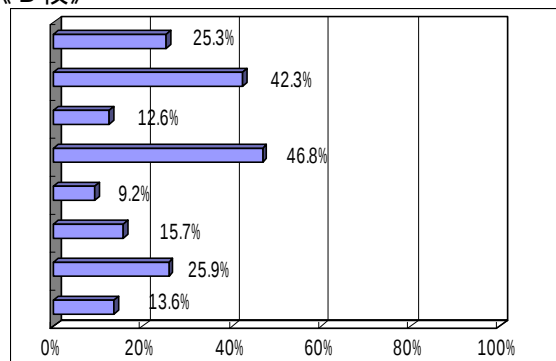
【学区全体】

特色ある学習内容	21.7%
学校行事・特別活動	16.3%
大学等への進学や就職の状況	30.1%
部活動	17.9%
校風・学校の雰囲気	47.0%
兄弟・親戚が通学	7.5%
通学時間	25.0%
その他	22.2%

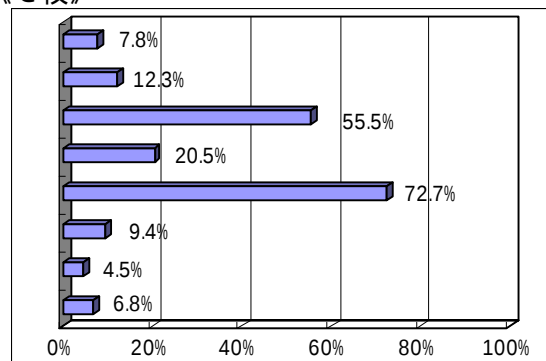
《A校》



《B校》



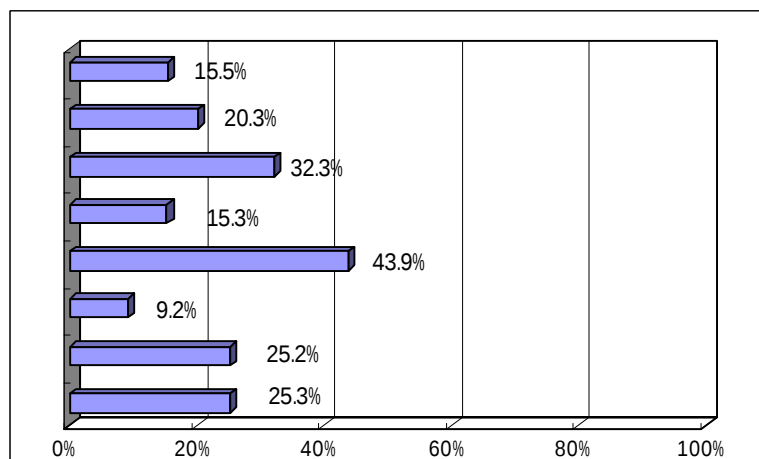
《C校》



b 姫路・福崎学区

問 第1志望校の決め手となった理由は何ですか

【高校新入生回答】



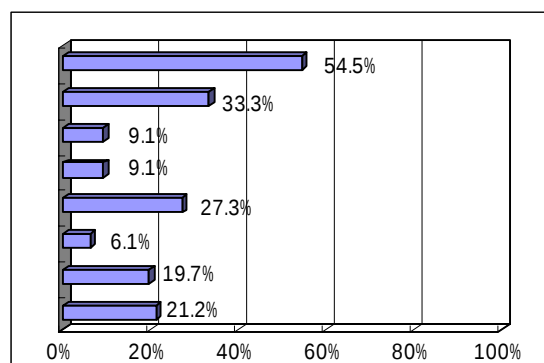
特色ある学習内容
学校行事・特別活動
大学等への進学や就職の状況
部活動
校風・学校の雰囲気
兄弟・親戚が通学している
(していた)
通学時間
その他

[姫路・福崎学区の学校別での状況]

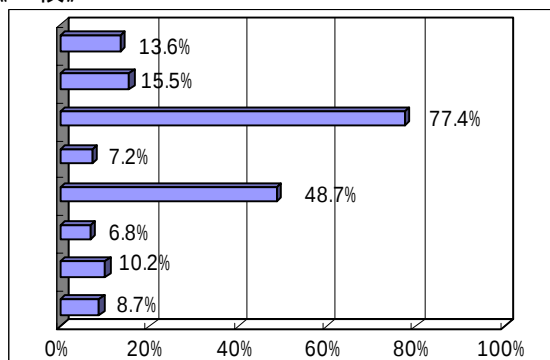
【学区全体】

特色ある学習内容	16.0%
学校行事・特別活動	24.1%
大学等への進学や就職の状況	31.3%
部活動	17.1%
校風・学校の雰囲気	43.1%
兄弟・親戚が通学	8.6%
通学時間	24.0%
その他	22.6%

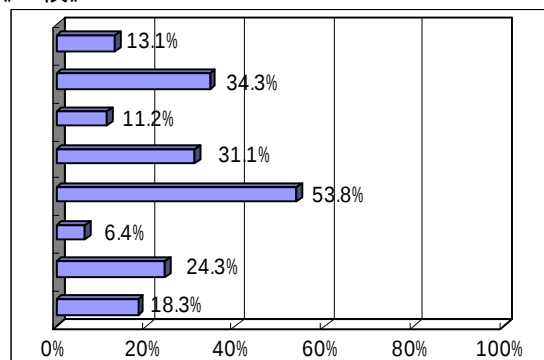
《D校》



《E校》



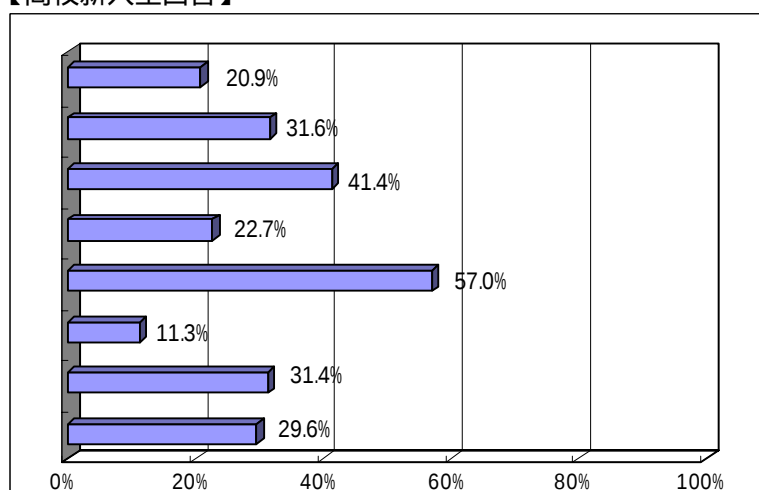
《F校》



c 加印学区

問 第1志望校の決め手となった理由は何ですか

【高校新入生回答】



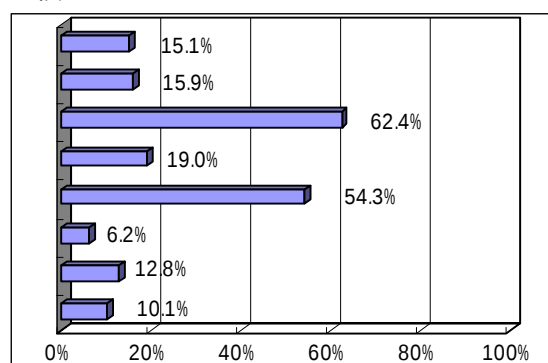
特色ある学習内容
学校行事・特別活動
大学等への進学や就職の状況
部活動
校風・学校の雰囲気
兄弟・親戚が通学している
(していた)
通学時間
その他

[加印学区の学校別での状況]

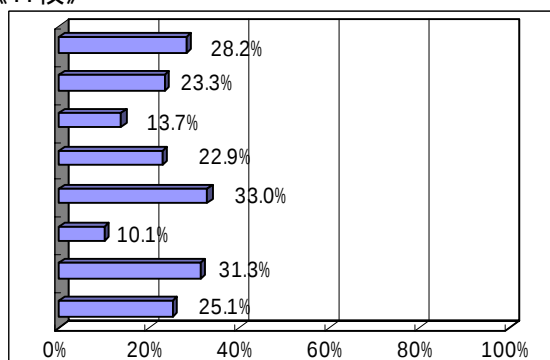
【学区全体】

特色ある学習内容	20.9%
学校行事・特別活動	31.6%
大学等への進学や就職の状況	31.3%
部活動	17.1%
校風・学校の雰囲気	43.1%
兄弟・親戚が通学	8.6%
通学時間	31.4%
その他	29.6%

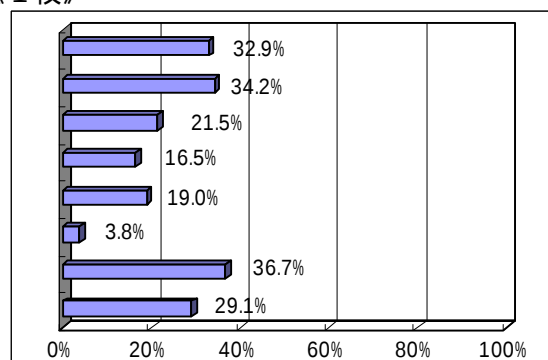
《 G 校 》



《 H 校 》



《 I 校 》

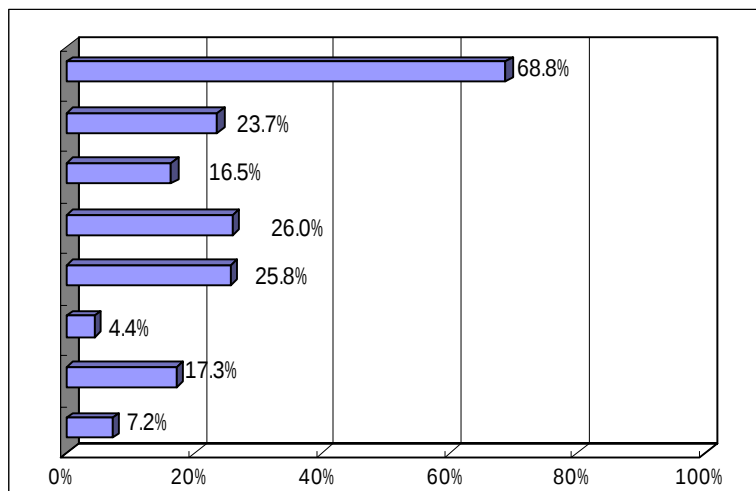


(3) 特色選抜の決め手について

問 特色選抜において志望校の決め手となった理由は何ですか

a 神戸第三学区

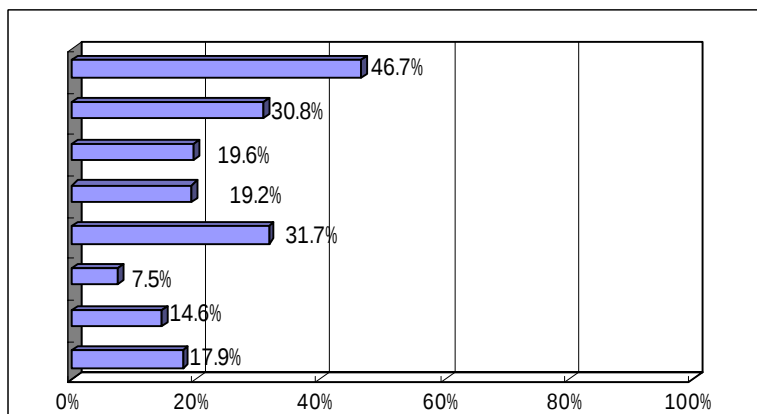
【高校新入生回答】



特色ある学習内容
学校行事・特別活動
大学等への進学や就職の状況
部活動
校風・学校の雰囲気
兄弟・親戚が通学している
(していた)
その他

b 姫路・福崎学区

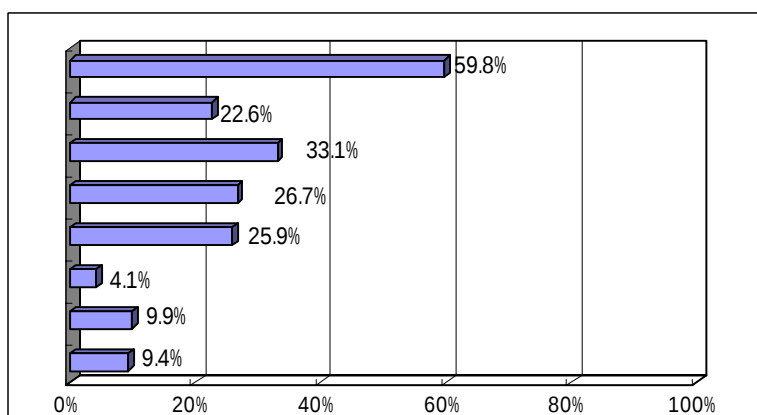
【高校新入生回答】



特色ある学習内容
学校行事・特別活動
大学等への進学や就職の状況
部活動
校風・学校の雰囲気
兄弟・親戚が通学している
(していた)
その他

c 加印学区

【高校新入生回答】



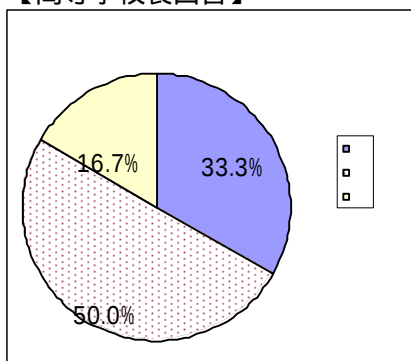
特色ある学習内容
学校行事・特別活動
大学等への進学や就職の状況
部活動
校風・学校の雰囲気
兄弟・親戚が通学している
(していた)
その他

(4) 入学した学校での取り組み状況について

問 特色選抜で入学した生徒について、複数志願選抜で入学した生徒と比較して学習や学校生活の取り組みに違いはありますか

a 神戸第三学区

【高等学校長回答】



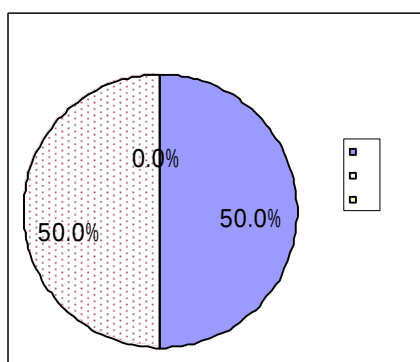
違いがある
やや違いがある
変わらない

【 についての具体的な意見】

- ・入学した生徒の意識が高く、リーダーシップを発揮しボランティア活動にも積極的である。
- ・いわゆる学力面で課題のある生徒がいる。

b 姫路・福崎学区

【高等学校長回答】



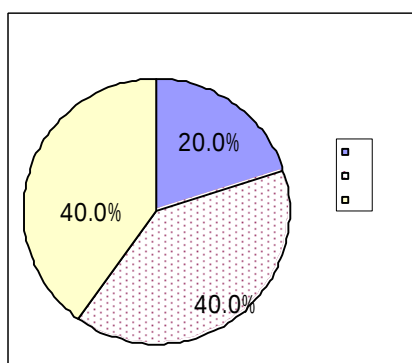
違いがある
やや違いがある
変わらない

【 についての具体的な意見】

- ・何事にも積極的に学校生活に取り組んでいる。
- ・表情も明るく楽しい学校生活を送っている。
- ・部活動の取り組みが積極的である。
- ・目的意識が高く、コミュニケーション能力や文章を書く能力が高い。
- ・部活動に関しては高い意欲を示す一方、学習活動の意欲が低い生徒がいる。

c 加印学区

【高等学校長回答】



違いがある
やや違いがある
変わらない

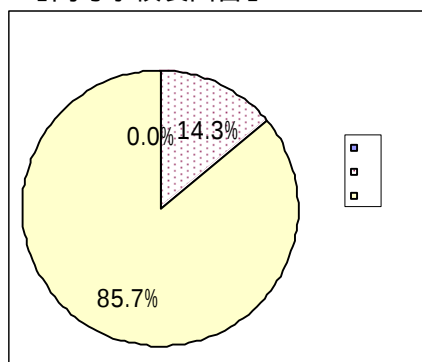
【 についての具体的な意見】

- ・課題に取り組む意欲が高く、学校生活に前向きに取り組んでいる。
- ・個性的な生徒が多い。

問 第2志望やその他校で入学した生徒について、第1志望で入学した生徒と比較して学習や学校生活の取り組みに違いはありますか

a 神戸第三学区

【高等学校長回答】



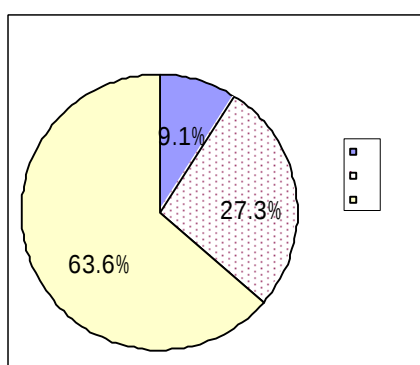
違いがある
やや違いがある
変わらない

【 についての具体的な意見】

・本校の特色をあまり理解せずに入学した生徒がいる。

b 姫路・福崎学区

【高等学校長回答】



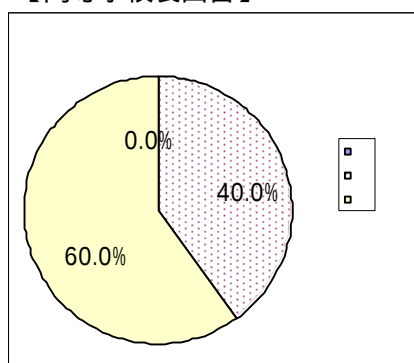
違いがある
やや違いがある
変わらない

【 についての具体的な意見】

・学習に対して意欲的な取り組みを示している。
・第2志望で入学したことに対するこだわりはなく生活している。学習面での意欲が高く、日々努力する姿勢が見られる。

c 加印学区

【高等学校長回答】



違いがある
やや違いがある
変わらない

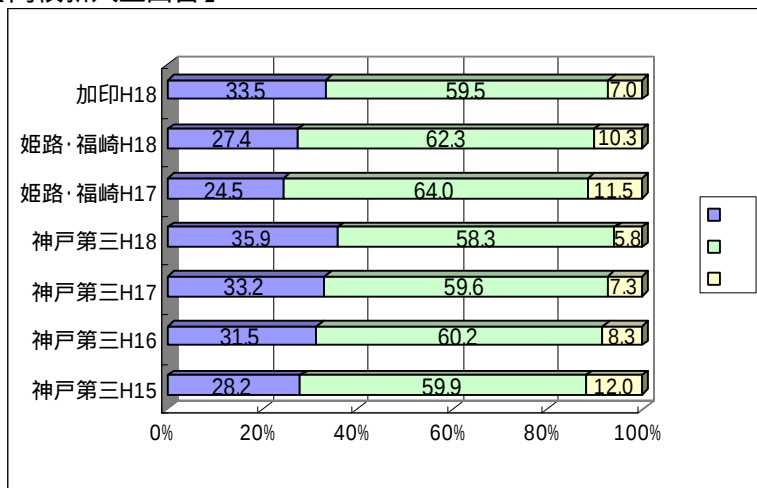
【 についての具体的な意見】

・第2志望で入学した生徒の方が学習活動に対して意欲的な面がある。
・進学希望が多く、家庭学習の時間が長い。

(4) 複数志願選抜への理解度について

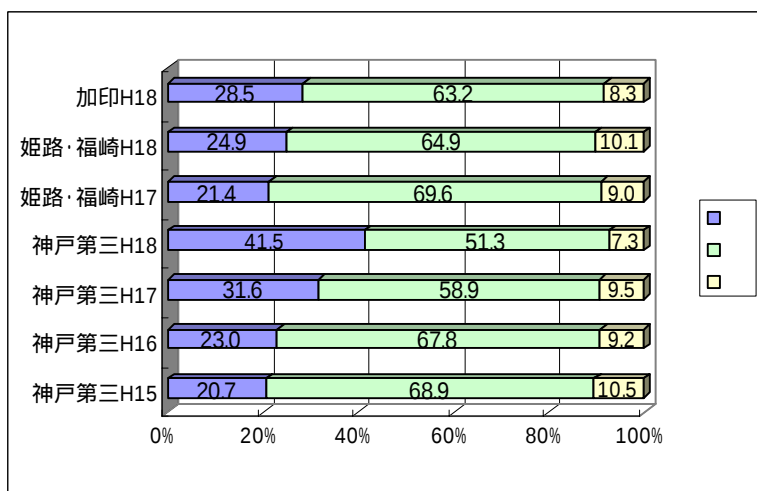
問 複数志願選抜の内容について理解していましたか

【高校新入生回答】



よく理解していた
だいたい理解していた
あまり理解していなかった

【高校新入生保護者回答】

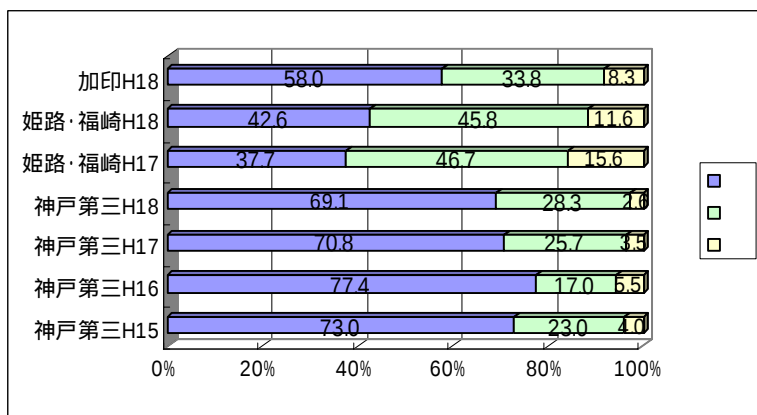


よく理解していた
だいたい理解していた
あまり理解していなかった

(5) 特色選抜への理解度について

問 特色選抜の内容について理解していましたか(特色選抜による入学者)

【高校新入生回答】



よく理解していた
だいたい理解していた
あまり理解していなかった

高校生活に関するアンケート

（神戸第三学区における複数志願選抜及び特色選抜で入学した３年生生徒対象）

〔実施時期〕 平成１８年１月

〔実施対象〕 神戸第三学区の複数志願選抜実施校９校における複数志願選抜及び特色選抜で入学した３年生生徒全員

〔実施結果の概要〕

高校生活の充実度について

（１）全体（入学直後との比較）

—入学直後（約８４％）に比べて卒業前（約９０％）の方が充実度が上がっている—

	入学直後 (H15年５月)	卒業前 (H17年12月)
大変充実	２８．０％	３９．６％
充実	５６．５％	５０．３％
あまり充実していない	１５．６％	１０．１％

（２）選抜制度別（入学直後との比較）

—複数志願選抜・特色選抜とも入学直後に比べて卒業前の方が充実度が高い。

特色選抜での入学者は複数志願選抜入学者に比べて卒業前でも充実度が高い—

		複数志願選抜入学者	特色選抜入学者
入学直後	大変充実	２７．５％	３６．５％
	充実	５６．６％	５３．９％
	あまり充実していない	１５．９％	９．６％
卒業前	大変充実	３９．６％	４０．８％
	充実	５０．２％	５３．１％
	あまり充実していない	１０．２％	６．１％

〔参考〕神戸甲北高校実施の総合学科卒業生に関するアンケート集計結果より

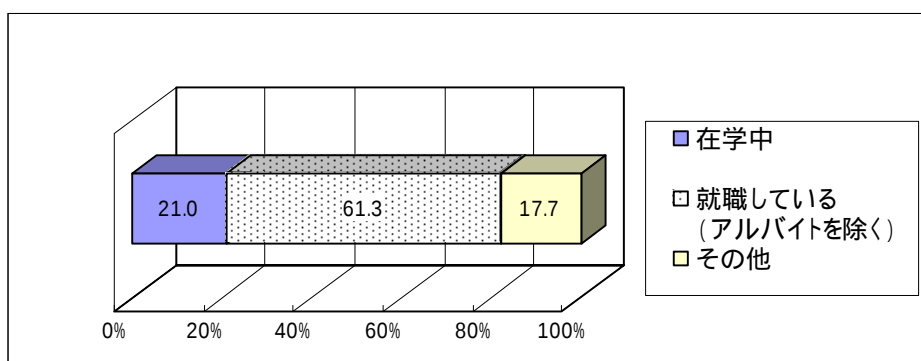
- 実施時期 平成 1 7 年 2 月
- 実施校 県立神戸甲北高等学校（平成 1 6 年度特色づくり研究校実施報告書より）
- 調査対象 県立神戸甲北高等学校総合学科第 1 期卒業生（H9.4 入学，H12.3 卒業）
2 6 7 名
- 実施方法 アンケート形式（選択肢より選択）
- 回収率 2 3 . 2 %（ 6 2 名）
- 調査結果

1 性別

男子 1 9 名（30.6%） 女子 4 3 名（69.4%） 合計（ 6 2 名）

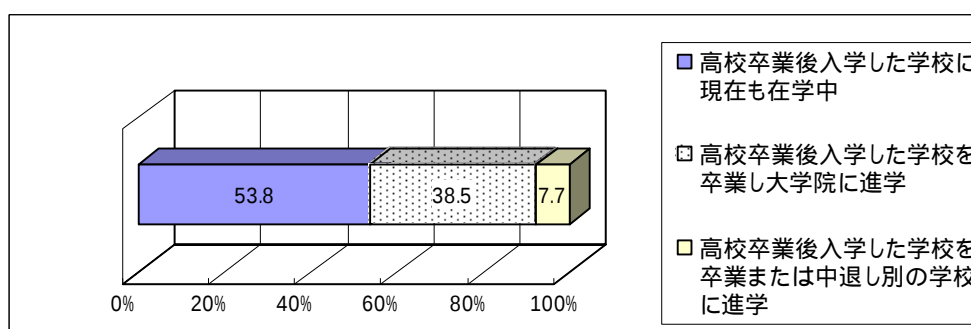
- ・転居先不明が多く、回収率は低かった。
- ・回収アンケートの男女比は、卒業生の男女比に比べるとやや女子の比率が高い。

2 現在の状況

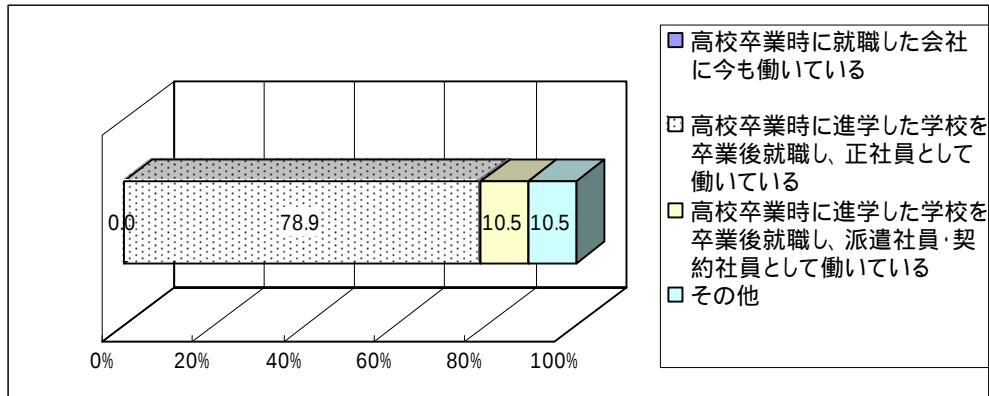


- ・全体の 2 0 % にあたる 1 3 人が現在も在学中、そのうち 4 割（ 5 人）は大学院へ進学している。
- ・就職しているのは、全体の約 6 割（ 3 8 人） そのうち 8 0 % 以上が正社員として就職している。
- ・大学等を卒業してフリーターになっているものは、全体の 1 0 % 強（ 7 人）である。最近の大学卒業生におけるフリーター率が 3 0 % を超え、就職率が 6 0 % を切っていることを考えると、フリーター率 1 1 % は少ないといえよう。

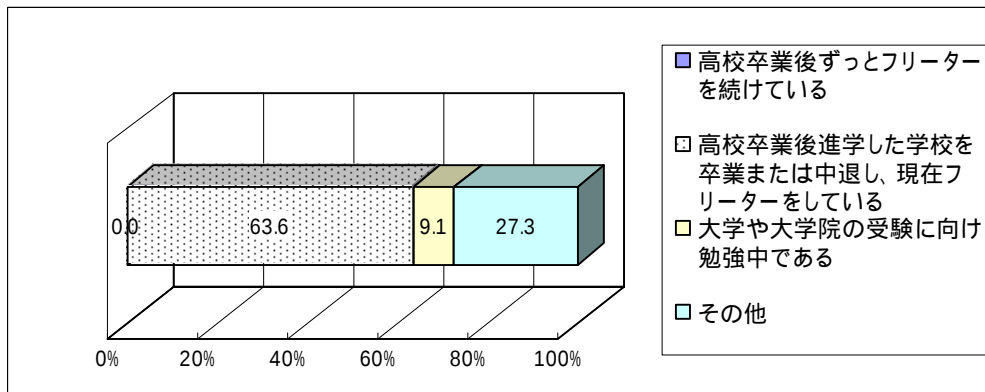
2 - (1) 「在学中」の内訳



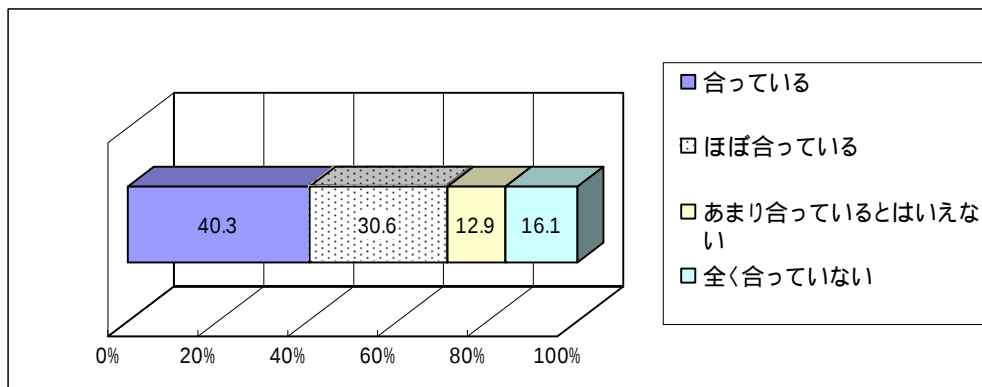
2 - (2) 「就職している」の内訳



2 - (3) 「その他」の内訳

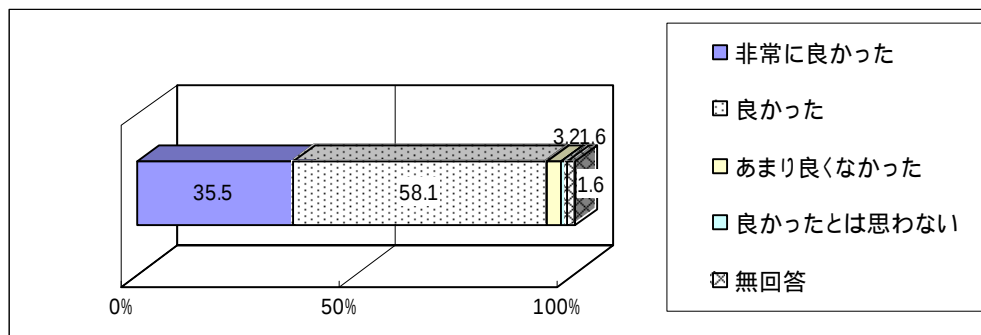


3 現在の在学・就職状況等は、高校のときの進路希望とあっていますか。



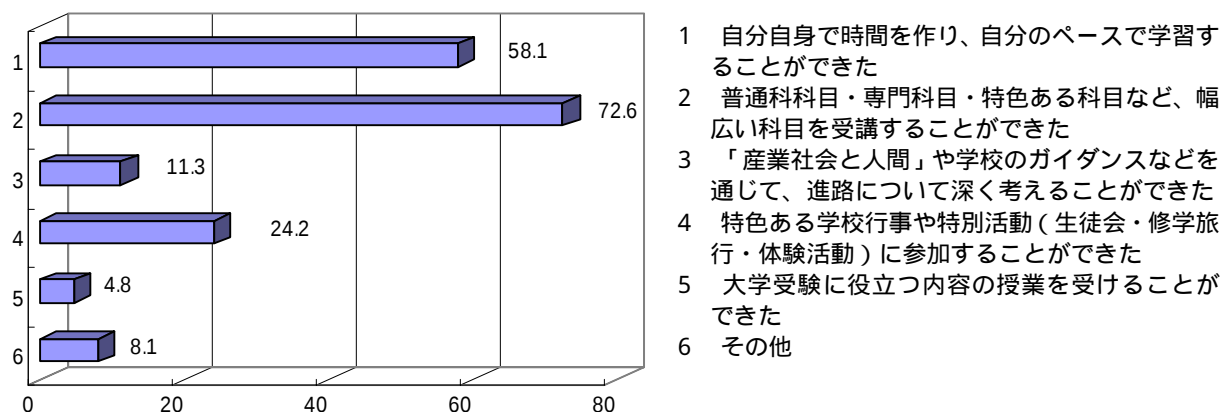
現在の状況が高校卒業時の希望にあっているかどうかでは、「合っている」と「ほぼ合っている」を合わせると70%を超え、高校時代に育んだ進路希望の実現に向け着実に進んでいる姿が見受けられる。

4 総合学科で学んで良かったと思いますか。



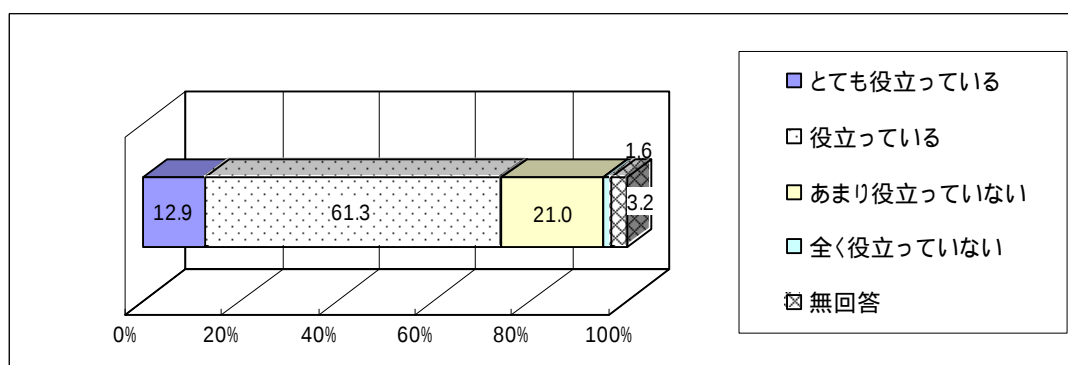
「総合学科で学んでよかったかどうか」の問いには、95%近くの生徒がよかったと答え、アンケート回答者が甲北高校へ好印象を持つ卒業生の比率が高いだろうという想像を差し引いても、非常に高い比率だといえよう。

5 総合学科で学んでよかったと思う点は何ですか。



・総合学科で学んで良かった点としては、「自分の時間割で学習できたこと」と「幅広い科目を受講できたこと」の2点で大半を占めたのに対して、「大学受験に役立つ授業を受けられた」は非常に少ない。

6 総合学科で学んだ内容は、高校卒業後の学習や生活に役立ちましたか。



・4人に3人は「総合学科の学びが卒業後も役立った」と答えている。